

わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2017.7 NO.448
初夏号
第69巻1号

朝掃除ボランティア

児童会の環境委員会（5、6年生）が中心となって、校門、あじさい公園の周辺の清掃活動を始業前に行っています。環境委員会の呼びかけに応じて、毎回参加者が増えていきます。一生懸命に掃除をしている姿を見た低学年の児童が、小さな手で落ち葉を集めて来てくれました。自分たちにできることで学校をより良くしようという児童会の取組みが自然な形で低学年にも浸透してきています。



ぎ なんちょうりつにししょうがっこう
岐南町立西小学校

●【学校の教育目標】

願いを持ち仲間と共に夢中になって
取り組む子

がんばる子らの
汗と笑顔と眼差しと

岐南町立西小学校



読み聞かせ

月1回、地域の読み聞かせボランティアのみなさんの楽しいお話を聞き、交流します。



交通安全教室

3年生の児童が、自転車の乗り方を、警察官やPTA交通安全委員会のみなさんに教えていただきます。



米作りに挑戦

5年生の児童が総合的な学習の時間に、地域の方の指導のもと米作りに取り組みます。収穫したもち米を「ふれあいお餅つき大会」でみんなで食べます。



チャレンジスポーツinぎふ

1～6年生全学級が、学級毎に種目を選んでチャレンジします。第1位を目指してリーダーを中心に呼びかけ合って取り組みます。



ふれあいお餅つき大会

青少年育成町民会議をはじめ、自治会、民生委員等地域のみなさんとPTAが協力して児童と一緒に餅をつき、食べてふれあいを深めます。



徳田ねぎ作りに挑戦

3年生の児童が、地元の特産品「徳田ねぎ」づくりに取り組んでいます。ねぎを通して、ふるさと岐南への愛着が深まることを願っています。

わが子のあゆみ

2017.7 No.448 初夏号
第69巻1号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



瑞穂市立 中小学校

【みずほしりつなかしやうがっこう】

- 住所 〒501-0312 瑞穂市美江寺173
- TEL (058)328-2039
- FAX (058)328-4796
- メール sunaka@he.mirai.ne.jp
- 児童数 174名(H29.4.1現在)

学校の教育目標

学び合う子
心豊かな子
元気な子



学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

本校の歴史は明治六年に開蒙学校、月盛学校が創立されたことに遡ります。明治十二年にはこの二つの学校が合併し船木学校となり、十七条尋常小学校、船木小学校等を経て、現在の「中小学校」という名前が生まれたのは昭和二十九年のことです。

校区には、水田や柿畑が広がり、中山道の宿場町として栄えた美江寺を始め、重里・十七条・十八条の四つの地区から成っています。各地区では「お蚕祭り」や「地蔵祭り」など古くからの伝統を大切にしつつ、そこに小中学生が活躍する場を与えるなど、次の世代に伝統がよりよく受け継がれるよう熱心に活動しています。こうした地域性により、子どもた

ちは積極的に地域の活動に参加し、学校・家庭・地域の連携の中で温かく見守られ、伸び伸びと育っています。

学校のたからもの① 活動の内容

広がるボランティアの輪

「おはようございますー」中小学校の朝は、元気な挨拶から始まります。児童玄関の前にはオレンジの鉢巻きをした児童会執行委員と学級委員による「挨拶ボランティア隊」が登校してくるみんなを明るく挨拶で迎えます。しかし中小のボランティアはこれだけではありません。

本校の校庭には大きなけやきの木があります。秋になると色づいた葉が大量に降り注ぎ、校務員さんが毎日毎日掃除してくださっていました。ところが一昨年、校務員さんが大変だからと、六年生が自主的に落ち葉掃きを始めました。

それが次の年には全校に広がり、登校した子どもたちは先を競って竹箒を取りに行き、始業までの時間、せつせと落ち葉を掃き集めてくれました。けやきの落葉も終わり、朝のボランティア活動もこれで終わりかと思いきや、三学期スタートと同時に六年生が卒業に向けての朝のボランティア活動として、運動場の芝生の間に芽を出している雑草引きや、廊下や玄関の掃除を始めました。こうした姿はまたたく間に下級生にも広がり、一月や二月の寒さにも負けず、六年生が卒

業した翌日の修了式の朝まで、たくさん子どもたちがボランティアに取り組み続けました。こうして始まった中小学校の新しい伝統を、今年も子どもたちは引き継いでいます。

◀落ち葉掃きのボランティア



オレンジハチマキ隊による▶
「あいさつ運動」



心を開く仲間作りの活動

① 仲間の時間

伸び伸びと心を開き、自信を持って自己表現する姿を目指して、三年前にスタートさせたのが「仲間の時間」です。毎朝の「チャレンジタイム」のうち、週二回をあてています。高学年は「合唱」、低学

校歌 中小学校校歌

作詞 川口半平
作曲 春日俊男

一、光は空に 満ちてゐる
希望明るく 胸広く
正義の足を ふみしめて
共に仲よく 進むのだ

二、高い理想は 伊吹山
清い心は 犀川の
流れに青い 雲のせて
共に仲よく 学ぶのだ

三、伝えに残る この里の
昔をたずね 今を知り
たがいに心 あたためて
共に仲よく 励むのだ



▲合唱



▲グループエンカウンター

年は「構成的グループエンカウンター」を行っています。この取り組み以来、内気だった子どもたちも、笑顔で元気に挨拶をしたり、相手の目を見てしっかりと話をしたりすることができるようになってきました。

② なかよし遠足

一年生から六年生までの「縦割り班活動」は小学校ではめずらしいことではありませんが、本校の縦割り班活動の特色は、五月の全校遠足です。学校の東を走る樽見鉄道を利用して、「淡墨公園」「文殊の森」「富有柿の里」を三年サイクルで回ります。全校児童が一度に樽見鉄道に乗車し、一つの目的地に出かけられるのは小規模校ならではの事です。事前に計画を立て、準備し、当日は一年生を座席に座らせたり、手をつないで山道を歩いたり、安

全に気をつけたりと六年生が最高学年らしさを身に付けてるとともに、全校に笑顔となかよしの輪が広がる活動です。

① PTC活動

PTCのCはchildren。親と教師と子どもたちが一緒に生活科や総合的な学習の時間の活動に取り組めます。一年生は「家の仕事」。洗濯物たたみ、上靴洗い、雑巾がけなどの仕事コーナーで二人ひとり丁寧にお母さん先生に教えていただきました。六年生は「福祉体験」。親子がペアになり老人体験と、介助体験をしました。

保護者にアシストしていただくことで、より充実した活動を仕組むことができるとともに、親子のふれあいを深めたり、互いのよさを再発見したりする大変有意義な活動です。また、学校教育に対する理解を深めていただく貴重な機会にもなっています。

② ふなぎタイム

「ふなぎ」とはかつての名称「船木小学校」に由来します。生活科や総合的な学習の時間で行う「ふなさと学習」の時間をこう呼んでいます。各学年毎に、地域の「ふれあいサロン」に出かけお年寄りと交流したり、地域の講師を招いて「ふなさと」について学んだ



樽見鉄道に乗って▶
なかよし遠足



▲柿ジャムを使ったお菓子作り

りしています。

ふるさと果南を代表する農作物と言えば「ふな」と「富有柿」です。五年生では地域講師の方の指導やJ・A果南の協力の下、「はつしも」を育てています。また四年生では、「富有柿」を使った加工品を生産している方を講師に迎え、柿をそのまま出荷するだけでなく、柿の葉茶や柿ジャムなど、新しい商品を生み出す知恵と工夫を学びました。講師の方の指導で行う柿の加工品を使ったお菓子作りは、子どもたちがいちばん楽しみにしている活動です。

「ふなぎタイム」の学習の成果は二月の「ふなぎの会」で、保護者だけでなく地域の講師の方々も招待し、発表します。こうした取組みにより、学校・家庭・地域が響き合い、今日も中小の子どもたちを育てています。



揖斐郡池田町立 温知小学校

【いびぐんいけだちょうりつおんちしょうがっこう】

- 住所 〒503-2417 揖斐郡池田町本郷1267
- TEL (0585)45-3166
- FAX (0585)44-1001
- メール onchisyo@school.town.ikeda.gifu.jp
- 児童数 480名
(男子245名 女子235名 H29.5.8現在)

学校の教育目標

よく考え 心豊かに
たくましくやりぬく子

・めざす学校の姿
～温かさ広がる学校 知力が伸びる学校～

校訓 温故知新 ～伝統と創造～

学校のたからもの



「心を込める」を合い言葉に、「だれもが大切にされる学校」「だれもが生き生きと学ぶ学校」「だれもが元気に生活する学校」を目指しています。

学校のたからもの①
活動の内容

本校は、池田町の教育の重点である「福祉教育」の充実に取り組んでいます。人との関わりを通して、だれもが大切にされる学校を目指しています。

一年生は、幼稚園・保育園との交流「なかよし会」を年三回行っています。二年生は、新生児との学校探検を通して同年

齢や異年齢の子ども達と協力し合う活動を進めています。

三年生、四年生になると高齢者の疑似体験として、車いすやサンングラスヘッドフォン・重りバスター等の福祉補助器具を着用し、階段歩行やトイレ体験を通して不自由さを理解します。また、特別養護老人ホームを訪問しゲーム交流をしたり、昼食の「まごころ弁当」作りのお手伝いをしたりします。

五年生、六年生になるとゲストティーチャーを招いて盲導犬の学習・障がいのある方の講話を通して、「福祉の町 池田町」について知る機会を広げています。



▲ふれあい班活動

ゲストティーチャー
「福祉教育 盲導犬」



▲まごころ弁当作り

沿革・地域の自然や風土

本校の校名「温知」は、故事成語の「温故知新」から名付けられたものです。「古きをたずね新しきを知る」というこの言葉には、どんなに時代が進んでも、学問する心の扉を叩く、大切な心構えが込められています。

校区は、古くからの商店街や農村地帯に新旧の住宅地が広がる地域で、校区民運動会や文化祭などの行事が公民館ごとに行われるなど、地域の連帯感強く、子ども達のよりよい成長につながっています。

今年で開校一四四周年を迎えますが、温故知新に「伝統と創造」という意味をもたせて、新たな伝統づくりに取り組みんでいます。本年度は「声をつな

校歌

温知小学校校歌

作詞 小川次郎
作曲 遠藤正男

一、昇る朝日に照りがやいた
池田の山のゆるがぬ姿
尊くあそび気も晴れ晴れと
集うわれらの温知校

二、総りゆたけく風なごやかに
若き希望みなぎるところ
足並みそろえ手をとりあつて
学ばわれらの温知校

三、父祖がおこしたこのよ、郷に
温故知新のいわれも古く
文化の花を咲かおらすと
はげむわれらの温知校

だれもが生き生きと学ぶ学校

福祉教育と共に、池田町は「外国語教育」の充実も重点の一つとなっています。本校にはA・L・I一名と外国語教育支援員三名が配置され、一年生から年間通して英語にふれる機会をつくっています。夏休みには低学年を対象に、「親子で英語サマースクール」を開いています。低学年のうちから親子一緒に英語活動にふれることは、生き生きと学ぶことにつながっています。

また、池田町は「木曾三川」の一つである揖斐川と池田山の間に位置する、自然豊かな地域です。学校周辺は宅地化が進んでいるものの、田畑が広がり清流を利用した稲作やお茶作りが盛んです。本校では、五年生が「バケツ稲作り」を通して、米作りの工夫や苦勞を学習していま



▲茶摘み・お茶工場の見学



▲ランチルームで給食

す。三年生は「茶摘み」体験やお茶工場の見学を通して、地域の産業を地域の方から生き生きと学んでいます。

だれもが元気に生活する学校

本校は、一年生から六年生の異学年縦割り活動「ふれあい班活動」が年間を通して定着しています。毎週金曜日の朝活動で、一学期はふれあい班遊び、二学期は長縄跳びをしています。この活動は、高学年のリーダー性を伸ばすと共にお互いの良さを認め合う良い機会になっています。また、「太陽の時間（休み時間）」には全校児童と全職員が校庭に出て遊んだり運動したりすることで、元気に生活する学校を目指しています。

本校の給食は、全校児童・職員がランチルームに移動します。約五百人が一堂に会し、共通の時間を過ごすことによって正しい食習慣を身に付けていきます。給食の後は全校歯みがきを二斉に行うことで規則正しい生活習慣づくりをしています。

学校を誇りと感じる PTA活動・地域活動

二十二地区ある各地域には花壇があり、地域で世話をしています。年一回、花壇の様子を記録した「心の花ノート」を校内に展示しています。

花育は、全校でも行っています。校内の花壇と地域の方に貸していただいている畑で、種まき移植を低学年と高学年が協力しながら色とりどりの花を育てています。咲き誇った花は、日頃お世話

▼心の花ノート



▲読み聞かせサークル
「たから箱」

になっている地域の方々にお礼として贈っています。

保護者のボランティアによる読み聞かせサークル「たから箱」の活動も児童の心を豊かにしています。図書室や児童館での読み聞かせ・図書館祭り・年生を迎える会・六年生を送る会等、子ども達が本に親しむように毎回趣向をこらした活動が、長年引き継がれています。

このような活動を通して、自分「かけがえのない大切な存在」であることを知り、「夢や目標の実現」に向けて、「仲間と共に、ひたむきに努力する」温知の子ども達を学校・地域・家庭で大切に育てています。



御嵩町立 伏見小学校

【みたけちようりつふしみしょうがっこう】

- 住所 〒505-0125 可児郡御嵩町伏見489
- TEL 0574-67-0530
- FAX 0574-67-6430
- メール fushimis@mail.town.mitake.gifu.jp
- 児童数 272名

学校の教育目標

よく考え 仲間と
かかわりあって
行動できる子

心豊かな子 よく考える子 体をきたえる子

学校のたからもの



学校のたからもの① 伏見小学校四つの伝統

本校では、全校のリーダーである六年生を中心に、学校生活の向上をめざした取り組みを充実させています。「あいさつ」「そうじ」「運動」「合唱」の四つを伏見小学校の伝統とし、「誇りある活動」として全校で取り組んでいます。

①「さががけあいさつ」

児童が主役となって工夫をしながら挨拶活動を進めています。中でも、毎朝児童玄関前に立つ「挨拶ロード」は、「元氣いっ

ぱい」の声で「さががけあいさつ」の気持ち良さを感じ合う伝統的な活動になっています。今年の課題は、挨拶を地域に広めることです。卒業した中学生が、登校途中に出会う小学生と挨拶をする姿を大切に、挨拶の輪を広めています。

②「もくもく掃除」…感謝の心を育む

多くの卒業生達の思い出がつまった校舎を美しくする掃除をめざしています。全校斉の「黙想」・始めの挨拶で始まり、無言で取り組みます。多くの地域の方々が奉仕作業やボランティア活動など、校舎の美化を精一杯支えてくださっています。七月は重点月として、いつもは共に掃除に励む先生方が掃除巡回します。美化委員会の提案した活動で、素晴らしい姿が毎学期紹介されます。

③「はりきり運動」

…めあてに向かって仲間と
取り組む力を育む

毎週木曜日の二十分休みを「チャレンジタイム」として全校で行います。投力・持久力の向上をめざしてボールパスや縄跳びに取り組み、学期末には大会を行って行きます。進行・運営を運動委員会が担当し、盛り上げるための工夫改善をしています。「チャレンジスポーツinぎふ」にランキング登録し、チームを作って挑戦をしている学級もあります。

④「明るい歌声」

…心をつにし、豊かな心を育む
放送委員会が中心となって全校の歌声づくりを推進しています。毎月の全校



学校の沿革及び地域の様子

本校は、明治六年に伏見宿伝馬所に敏行舎として開校し、昭和三十年の町村合併により御嵩町立伏見小学校となった、創立四〇年以上となる伝統ある学校です。明治四十四年に、高根山を背負い可児川を見下ろす現在の場所に校舎が建てられました。昭和四十二年に、鉄筋コンクリートの現在の校舎が完成しました。

地域には多くの古墳や中山道「伏見宿」に纏わる史跡があります。木曾川に隣接することから、当時は「新村湊」を拠点に、物資などの輸送がさかんに行われ賑わいました。



▲お父さんの読み聞かせ

集会では、学級や学年で練習を重ねた「今月の歌」を全校合唱します。十一月には、東濃実業高校の生徒らが作詞作曲した中山道の歌「僕はらっぴい」を、十二月には、人権ソング「世界を幸せに」を歌うなど、毎年の行事や育みたい心と関わった歌に取り組んでいます。また音楽会で、取組の成果を保護者や地域の皆さんに披露しています。

学校のたからもの② 地域の教育力

①読書活動

伏見小学校では、朝読書、並行読書、総合の調べ学習など読書活動に力を入れています。その土台には、PTAや地域の協力による「読書の推進」があります。家族の絆を深めるための「家読10（うちどくテン）」（家で読書十分）、読み聞かせサークル「わくわくさん」による月回の学級ごとの読み聞かせなど、様々な分野の本にふれています。またPTA母親委員会の活動として、土曜参観日の「お父さんによる読み聞かせ」も長年続けています。昨年から、PTA発信で、わが子のために図書室で本を借り、家で読み聞かせる活動を始めました。

②総合的な学習

生活科や総合的な学習の時間を中心に、活動の場や指導者を広く地域に求め、交流を通してふるさとを愛する児童の育成に努めています。地域の施設を訪ねるとき、「名鉄広見線」を利用し、

交通に関わる学びや広見線の存在を広げていくことも大切にしています。農協や女性の会の方々と、町の特産でもある大豆の栽培と豆腐作りを体験し、地域の力を学ぶ三年生。町環境マイスターの案内でみたけの森を散策し、森林ボランティア「水士里隊」の協力で里山体験をする四年生。地域の方の協力で米作りを行い、古墳とつながって歴史の扉を開ける五年生。御嵩町の花である菊を人鉢育てることで、命を育む感情にふれ、地域の一員としての自覚をもつ六年生。どの活動も、地域の方々の支えで実現しています。

学校のたからもの③ 校種間連携（幼保小中高）

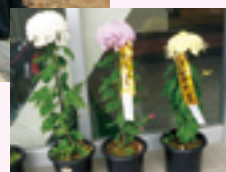
校区内に、伏見保育園、組合立共和中学校、東濃実業高校があります。そこで、入学説明会や体験入学以外にも交流を心がけています。例えば、五年生は園に出向き、年長さんの歯磨き指導や仕上げ磨きを行います。また園児に小学校の砂場を開放し、小学生と一緒に休み時間を過ごす機会を設けるなどしています。中学校とは、生徒会の皆さんと挨拶運動をコラボすることなどにより、伝統としている活動が中学校でも大切にされていることを実感します。東濃実業高校とは、食物科の生徒と一緒に「お菓子作り」をしたり、ブラスバンド部が来校して演奏会を行ったり、児童に憧れの気持ちを育んでいただいています。



▲東濃実業高校の演奏と音楽コラボ



▲名鉄広見線を使って、町探検



育てた菊の大輪▶



▲PTAと生徒が一体となるリサイクル活動

校歌

糸貫中学校校歌

作詞 糸貫中学校
作曲 小木曾薫

一、鶴に名高き 糸貫の
川原に築く 学び舎よ
若き命を たたへつ
文化の花を かをらせむ
あゝ糸中 あゝ糸中
われらが母校

二、船木の山に 見渡せば
山脈遠く 海にゆく
大志を抱き 青雲の
燃ゆる彼方に はばたかむ
あゝ糸中 あゝ糸中
われらが母校

三、あゝ先輩の 友情と
ほこりを つたふ わが校旗
進むわれらが 誠実の
学びの道に 光あれ
あゝ糸中 あゝ糸中
われらが母校

本巣市立 糸貫中学校

【もとすしりついとぬきちゅうがっこう】

●住所 〒501-0406 本巣市三橋1101番地8
●TEL (058)323-1203
●FAX (058)323-3478
●メール itonuki@he.mirai.ne.jp
●生徒数 372名

学校の教育目標

友愛・挑戦・克己
の心で行動できる生徒

〈友愛〉仲間を大切に
〈挑戦〉価値あることに挑む
〈克己〉自分に打ち勝つ

学校のたからもの



沿革・地域の自然や風土

糸貫中学校区は、古い歴史と伝統をもつ田園地域であり、水田稲作の他に名産の富有柿やハウス園芸を中心とする近郊農業が盛んです。のどかな農村の風景を残しながらも、交通網の整備や大型店舗・工場の進出などによって年々都市化の傾向にあります。それに伴って、保護者の生活様式や価値観が多様化してきており、学校に対する期待や要望も高まっています。学校で行うPTA総会などへの参加率も高く、保護者の教育に対する関心は比較的高いといえます。

本校は、昭和二十二年開校で長い歴史と伝統をもち、多くの卒業生が各界で活躍しています。現在は「友愛」「挑戦」「克己」を柱に、生徒の力が高まるように、教

(2)リサイクル活動

PTA校外生活委員が中心となり、毎年三回リサイクル活動に取り組んでいます。資源の有効活用に取り組みとともに、リサイクルの収益で合唱祭のオーケストラを招こうという意気込みで生徒・保護者が一体となって取り組んでいます。

(3)地域づくり事業

毎年、席田小、土貴野小、二色小各校区で、各家庭が総出となり、「地域づくり事業」が盛大に開催されています。各地区においては軽スポーツなどが行われます。本活動実施にあたり、八月から二年生が中心となり、企画から当日の運営にいたるまで、地域の大人と協力してやり遂げています。

(4)MSJ活動

MSJ（マナー・スピリット・ジュニア）推進委員に応募した生徒が、通学路の清掃や根尾川花火翌日の河川敷清掃等の活動をしています。この活動を通して、生徒の規範意識を育成しています。

学校のたからもの② 特色ある教育

思考力・表現力の高まり

各教科では、問題解決学習を大切に、課題について自分の考えを創り、仲間と意見交流をしながら、解決に向かう学習に重点を置いています。生徒が多面的な考えをもてるように学習過程や資料、活動内容などを工夫し、より課題について深く学習できるようにしています。

科、生活、特別活動などの各方面からの指導の充実に力を注いでいます。

学校のたからもの① 生徒会の活動

糸貫中学校では、「あいさつ」「合唱」「清掃」「ボランティア」を生徒会の四本柱として、豊かな心を育むとともに自治力に満ちた校風づくりに努めています。

あいさつ

毎朝、登校してくる生徒たちとの最初の触れ合いは、「おはようございます」のあいさつです。潤いのある豊かな生活を求め、昇降口では生徒会執行部員やボランティア生徒、そして保護者、教室では担任が迎えています。

合唱

合唱を学級づくりの大切な場として捉え、文化委員を中心に、帰りの会で質の高い合唱を求めています。合唱祭は、日常生活の中で創り上げてきた学級・学年の歩みを、合唱という形で発表し、互いの頑張りに感謝したり、一年間の歩み・取り組みに誇りがもてたりすることを願って開催しています。PTAの協力も得て、オーケストラをバックに精一杯の合唱を、保護者や地域の方に披露



▲PTAも加わった挨拶運動



▲オーケストラをバックに歌う合唱祭

し、好評を得ています。

清掃活動

「掃除」については、自分たちの環境は、自分たちの手で美しくするという考えのもと、進んで清掃ができる生徒の心の育ちを求めています。

今年も、毎朝、南舎を自主的に掃除する三年生が何人かいます。全校に広がるよう進めていきます。

ボランティア

(1)施設訪問

生徒会が中心となり市内の養護老人施設や障がい者支援施設へ訪問し、交流を深めています。参加した生徒たちは、「相手の立場に立つて、心遣いや配慮することの難しさ」「相手の役に立っていた」「だくことの喜び」を感じつつ、精一杯優しい心を届けています。



▲観光地の生活を学ぶ郡上研修



▲海辺の生活を学ぶ若狭研修



▲社会的視野を広める東京研修

す。このような学習の繰り返しの中で、次第に生徒たちは、思考力や表現力を高めていっています。

また、話す姿勢・聴く姿勢については、委員会活動も関わって取組をしており、より質の高い表現力を身に付けるようにしています。各教科で話す姿勢・聴く姿勢についての目指す姿を四ステップで掲げ、そのステップを二つクリアしていくことで姿が向上していくようにしています。どの学級にもステップをクリアするとメダルをはめ込む掲示がしてあり、全校をあげて話す姿勢・聴く姿勢の向上に努めています。

キャリア教育

「問題解決学習を通して学んだことを、主体的に発信する中で、自らの生き方を追究できる生徒の育成」を目標に、

「生きる」を使った学習を通して、自己実現に向かつて積極的に行動できる態度を育てよう努めています。また、問題解決学習や様々な体験活動を通して学んだことを的確に発信する場も設け、表現力の育成も図っています。

二年生

・郡上研修における現地の方々の講話
・地元企業の方々による職業講話

三年生

・若狭研修における現地の方々の講話
・地元企業の方々による職業講話
・地元企業の方々による職業講話

・東京研修における企業訪問
・首都から学ぶ
・高校見学会

わが子のあゆみ

2017.7 No.448 初夏号

表紙 岐南町立西小学校

学校のたからもの 1
瑞穂市立中小学校／池田町立温知小学校／御嵩町立伏見小学校／本巣市立糸貫中学校

わが家の宝物 羽島市立中央小学校平成28年度PTA会長 西脇麻妃 9

特集 「先生!ありがとう!」 11

連載・PTAのABC (PTAの生い立ち①) 15

家庭教育応援団! ②⑥ 17
岐阜県環境生活部環境生活政策課

「多様性尊重の教育①」シリーズ みんな、いっしょに 19
岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援専修 教授 安田和夫

お弁当の日 高山市立山王小学校PTA 21

保健室ノート 御嵩町立向陽中学校 養護教諭 石川理恵 23

私の先生②⑥ 飛騨市立古川中学校 校長 向川原真郷 25

子育て半生記 岐阜市立市橋小学校PTA会長 武井満久 27

揖斐郡のPTAふれあいニュース [vol.6] 29
揖斐川町立春日小学校PTA
大野町立東小学校PTA
池田町立宮地小学校PTA
揖斐川町立揖斐川中学校PTA

私が出会った1冊の本【続31】 31
各務原市立那加第三小学校 PTA会長 森 涼
美濃加茂市富加町中学校組合立双葉中学校PTA 山本雄一郎

わが家の約束 33
美濃市立藍見小学校PTA母親委員長 村瀬紀子
大垣市立南中学校PTA会長 宮田直人

子の思い・親の願い・教育の窓 35
子の思い

岐阜市立長森北小学校 3年 平工芽奈
中津川市立落合小学校 6年 市岡 花
大垣市立江並中学校 3年 前刀奏斗

親の願い
可児市立今渡北小学校PTA 会長 本川晃子
瑞浪市立瑞浪南中学校PTA 会長 有我哲弘

教育の窓
神戸町立神戸小学校 教諭 琴梅育子
多治見市立笠原中学校 教頭 小池憲弘



親子ではてな 40
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
夏野菜たっぷりスバゲティ

ふるさとの伝承 43
大垣市立興文小学校

きらり!キッズ! 45
下呂市立上原小学校

夢中!熱中!我が部活 47
恵那市立恵那西中学校

私たちのPTA 49
関市立桜ヶ丘中学校PTA

わが家の宝物

羽島市立中央小学校
平成28年度PTA会長
西脇 麻妃



目には見えない宝物

我が家の二人の娘は、バトントワリングを習っています。学校が終わってからのレッスンの時は、夕食をお弁当箱に詰め、車の中で食べるのが日課です。おかずを口いっぱいに含んで、今日一日の話をしてくれる娘達の姿が、私は大好きです。長距離の送迎もとても楽しく、大切な娘達との時間です。

もう一つ、私の楽しみは、娘達の衣装作りです。写真はほんの一部ですが、裁縫の苦手な私は、先輩のお母様に教えていただきながら作っています。夜遅くなると、細かいビーズの穴が見えなくなる時もありますが、娘達が演技する姿を思い浮かべながら、一針一針縫っています。やり遂げた時の娘達の笑顔を楽しみに。

主人も、目標に向かって頑張っていることが自信となると考えて、今しかできないことへの挑戦を応援しています。

大会前は、連日レッスンが続きますが、娘達は弱音を吐かず、空いた時間に勉強をしながら頑張っています。きつと主人と私の想いが娘達に届いているからでしょう。

お互いを大切にしている心、それが我が家の宝物です。



特集

先生！ありがとう！

働き方改革、違法労働、残業時間、ガイドラインなどの言葉が頻繁に飛び交う昨今です。各種の調査で、小中学校の先生の長時間勤務が深刻さを増していることが分かりました。私たちは、子どもとじっくり向き合う余裕のない先生方の状況を心配しています。

去る三月の県PTA広報委員会で、PTAと学校、保護者と先生の信頼関係を深くし、両者が子どもたちのために協調して養育・教育を進めていくためには、何より保護者が先生へ感謝の気持ちを表すことが大切だと話し合いました。保護者がその気持ちを表し、持ち続ける姿が子どもに伝わり、やがて子どもたちも同じような思いを持つてくれると信じるからです。ここに「先生！ありがとう！」の声を届けます。先生の笑顔は、子ども達の笑顔だと思うからです。

先生に支えられて

四月から上の子は高校一年、下の子は中学二年生になりました。上の子は、中学校に入学した当初から、環境が大きく変わり、いつも「学校に行きたくない」と言っていました。

ですが、中学校で本気で打ち込める部活、信頼できる顧問の先生に出会えました。みんな違っていい、個性を認めてくれる先生に出会えました。そしてたくましく成長し、気が付けば三年間、休まず学校に行くことができました。

下の子が中学に入学する前、発達に私は大きな不安を抱えていました。そんな気持ちを担任の先生に相談すると、子どもにとって一番いい方法を、一緒に悩み、一緒に考えてくださいました。小学校を卒業した後も関係は終わることなく、中学校での様子を気にかけてくださっています。

そんな先生方の支えや思いに、私自身がずっと支えられてきました。

子育ては親だけでできるものではない。そう思いました。先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

先生！ありがとうございます！

匿名

生徒一人ひとりの先生

我が子は体調を崩して以来、学校を休み続けています。

健康であつた時には考えられない状況になりますと、大変不安にもなります。焦る気持ちを抑え子どもを支えられるのも、学校の強いサポートがあるからです。

学校のカウンセリングを勧めて頂き、親以上に苦しんでいる子どもの気持ちに寄り添えまして、定期的に家庭訪問される担任の先生は、子どもの様子の確認だけでなく、学校との繋がりを大切にし、本人の気持ちを汲んだ対応で、クラスの仲間として扱ってくださいます。

普段、他の生徒さんにも其々の実情に合わせ、熱心に対応される姿が想像できます。

何時しか、本人が一番感謝の気持ちに満たされることと思います。

日々多忙の折、生徒一人ひとりに寄り添い、親身になってくださる姿には、感謝の念に耐えません。先生有難うございます。

匿名

初めての三者懇談

中学生になって、それまでとは違い、教科ごとに先生が変わる授業。周りでは塾へ行き始める子が増える中、家での勉強の仕方に親子共にとまどいを感じていた頃でした。

三者懇談があり、担任の先生が息子の授業の様子や学習の話をしてくださいました。そして、私が家庭学習について相談をすると、具体的な方法を提案し、アドバイスをしてくださいったのです。（中学校の先生って、学習に対する的確

なアドバイスをしてくれるんだ」と感じ、親としてとても心強く思い、安心しました。

その後、先生からのアドバイスをもとに、家で勉強をした息子。その結果に少しずつ自信を付けて行くことができたのです。

二、三年でも素敵な先生に出会えたおかげで、中学校三年間、学習に限らずいろいろな事に前向きに取り組むことができたと思います。三年間お世話になった二人の先生、本当にありがとうございます。

兼松仁美

先生、ありがとうございます。

この言葉だけで、私の気持ちのすべては伝えきれません。保護者の立場しか分からない気持ちだけからです。

しかし先生は保護者であり、教育者の立場から子どもたちを見守り、育ててくれます。義務教育九年間の中で、多くの出会いと別れがありますが、生徒にとっては大切な恩師です。今はそう思わなくても、十年二十年と時間を重ねるたびに、あの時の先生の言葉が身にしみてわかる時があります。

教育は学校だけで行うものではなく、家庭、地域でも行うものと、PTAを通して実感しました。家庭教育、地域教育も充実させようとする先生方の熱意は、必ず子ども達が応えてくれます。私たち保護者も、同じく応えなければいけないと思います。

先生方には、多くの要望などに対応していただいて、本当に感謝しております。これからも、子どもたちの未来を大切に出来る教育環境のため、よろしくお願い致します。

瓜野秀典

感動の合唱

先日、六年生の感謝する会が行われ、学校へ行きました。各学年ごとに六年生への感謝の気持ちを込めて、群読や歌などの発表をしていました。

子どもたちの発表も素晴らしかったのですが、なんと最後に、先生方からのサプライズ発表があったのです。校長先生も含めた先生方皆さんで、「夢をあきらめないで」の合唱を聞かせてくださいました。

子どもたちは、先生方が心を一つにして、一生懸命にそして楽しんで歌われる姿に聞き入っていました。先生方が自ら練習して発表して下さった姿は、きっと子どもたちの心にいつまでも残ると思います。

先生方は、子どもたちに素敵な姿をみせてくださり、ありがとうございます。お忙しいお仕事の合間に、時間を作って練習してくださったのだと思います。私たち親も、とても温かい気持ちになり、感動しました。ありがとうございます。

中島仁美

先生方との出会いで、今の私がある

「先生！ありがとうございます！」

今回、原稿を書くにあたって、記憶を掘り起こすように小学校時代の担任から、一人ずつ思い出してみました。

普段、気にもしていなかった学生時代の恩師ですが、色々な思い出が甦ってきました。

小学校の全校集会で、神話を話してくれた校長先生、産休に入った担任の代わりに来られた先生はおじいちゃん先生で、楽しい先生でした（母の担任の時は恐い先生だと聞き、歳を重ねると変わるんだと、子ども心に残っています）。

生徒数が少ない二学年複式学級の時は、一人の先生が教室を二学年前後に分け、往復しながら授業をしていただきました。当時は考えもしていませんでしたが、二倍の労力と神経を使っておられたのだろうと感じました。

中学一年の時は、強面の先生でしたが、ギターを片手に豪快に歌を歌う意外な一面を持った先生でした。

色々な先生との出会いのおかげで、今の私のベースになっていると感謝感謝です。今までも、これからも「先生！ありがとうございます！」 和田望美

授業以外でも、いろいろありがとうございます

息子は先生との関わりを持って、今、十年目です。幼稚園から中学まで多くの先生方の力を

借りて成長してきました。

中学に入学してからは、担任、各教科担任、そして部活の顧問、さまざまな先生と向き合う中で、私もPTA役員として学校、先生との交流をもち、この一年、親子で共に学べる時間を過ごすことができました。

息子に勉強の面白さ、部活の厳しさを教えていただき、親の私には、先生方が毎日生徒の事を考え、授業以外にも色々な事柄に従事している…。役員でなければ知ることがなかった一面を垣間見ることができ、改めて尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

この生き難い、何でも制限される時代にこそ、先生方が先生らしくいられる世の中にしていかなくては…。それには先ず親が、自ら変わっていかなくてはと…。子どもたちの学校生活は、先生・親・生徒が三位一体となってこそ、最高の時を送れると思います。

これからも先生方、宜しくお願い致します。

みやちゃん

息子への深い愛情

「本当に、いい子です。」

「本当に、素直で優しい、いい子です。」

息子を担任して下さった先生は、二年間繰り返し両親に、こう言い続けてくださいました。

高次機能障害のため、学習面での遅れがみられ、落ちつきがなく、どちらかと言えば、乱暴

な振る舞いをしてしまう息子に、教科の指導だけでなく、子ども同士の関わり方や自分のできることに自信を持つ方法を、ねばり強く、繰り返し教えていねいに指導してくださいました。

離任される事を知った時の、息子のとめどなく流す涙を見て、先生の愛情の深さを実感しました。

昨今、仮想的な世界が子ども達を取り囲み、人の痛みや温もり、別れの悲しみなどに心を動かされる機会が減ってしまったような気がします。心と心のふれあいを、大切にしてください。先生に深く感謝しています。

匿名

校長先生、ありがとうございます

ぼくは、剣道をやっています。賞をとったら、

調理員さん、いつもありがとうございます

学校の全校朝会で名前をよんでもらえます。でもぼくは、いままではずかしかったので、校長先生にいいませんでした。

ユータロー

だけど、西濃大会で賞をとった時、校長先生が全校朝会で多くのせいせきを発表してくれました。すごくきんちゃんうしてはずかしかったけど、気持ちよかったです。

もっと強くなって、いいせいせきをのこしたいと思うようになりました。校長先生ありがとうございます。

私は、調理員さん達にありがとうございますを伝えたいです。それは、いつも私たちのためにバランスの良い給食を作ってくれるからです。

私は、一年生のころからずっと学校で調理員

さんが作る給食を食べていました。低学年の時は食べられないものがあつたり、食べきれない時もありました。今でもきらいな食べ物が出たりすると、「給食、いやだな」と思う時があります。だけど調理員さん達は、朝早くから私達のためにバランスにかたよりはなかなど細かくチェックし、手間や時間をかけて作ってくれていると思います。

私は、これから私達のために給食を作ってくれている調理員さんに感謝して、給食を食べて行きたいし、きらいな食べ物や、苦手な食べ物が出てでも残したりせず、きちんと最後まで自分で食べられるようにしていきたいです。

調理員さん、いつも私達のために給食を作ってくれて、ありがとうございます。これからもおいしい給食を作ってください。

瓜野 穂

pleasure

イラスト&クイズ



イラスト

PN. AO'L (大野郡)



妖怪アパートの幽雅な日常

長井 智也 (養老郡)

QUESTION-1

口から出して耳から入れるものな～んだ？



出題・井戸さくら (中津川市)
《答えは41ページ》



岐阜県PTA連合会は、来年度（二〇一八）、創立七十周年を迎えます。戦後の新しい教育を支え、学校を支援し続けてきたPTAは、時代の変遷の中で問題を抱えながらも、常に「子ども達のために」高く旗旗を掲げてきました。

最近では、PTAの組織や運営・活動などがテレビドラマにも取り上げられ、ネット上でも役員の選び方や任意加入などが報じられて社会的にも注目を集めています。

そこで温故知新。まず誕生と今日までの歩みについて紹介し、次いでPTAの今日的課題を取り上げます。題して「PTAのABC」。

アメリカで生まれたPTA

アメリカのPTAは、明治三十年（一八九七）二月十七日、ワシントンに誕生しました。今から一二〇年前の事です。

この日、アメリカのPTAの前身と言われる「全国母親協議会」が、創始者アリス・マクリーラン・バーニー夫人と、協力者であったフイビー・アパーソン・ハースト夫人らによって結成されました。

その頃のアメリカは、経済恐慌が去った数年後であり、至る所に景気の回復と活気が満ちあふれて、急速な工業化・都市化が進行し、「華やかな一八九〇年代」の最中でした。

しかし、まだ三十あまりの州にしか義務教育が制度化されておらず、学校に行かずに働いている子どもたちも多く、子どもたちの教育・福祉はあまり顧みられない時代でした。このような社会情勢の中では、学校の増設、教員の養成、教育課程の改善など、様々な社会改革の機運が高まることは言うまでもありません。母親協議会は、まさに、この様な時代の要請に応えるものでした。

バーニー夫人の思い

バーニー夫人が「全国母親協議会」を結成し、子どもと母親と家庭の福祉のために尽くそうと考えついた動機は、彼女が残した覚え書きにより

知ることが出来ます。その覚書には、次のようなことが書かれています。

「二八九五年、私の末娘アリアンが生まれた時、私の心は生命の誕生と言う偉大な神秘、親としてのおごりかな責任、私のそばにいる小さな赤ちゃんの全くの無力さ、などいっぱいでした。

そして、この世に新しく生まれ出る子どもたちを、幸せな、よりよい境遇に置くことのできる新しい世界をつくることを心に描きました。

どうしたら、国民がこれに強い関心をもつようになるか、また、母親たちが子どもの大切さを本当に分かるようになるかと、幾度となく考えました。

たまたま議会が開かれていて、その様子が世界中に打電され、ニュースは少なくともアメリカ国内では熱心に読まれていました。

そうだと、稲妻のように一つの考えがひらめきました。全国の母親の会議を作ろう。この会議は、すぐに世界中に広がるだろう。」

バーニー夫人は、成人教育によって母親を啓発しよう、世論を呼び起こして子どもたちの法律を作ろう、そして市民に子どもに対する責任を喜んで果たすようになってもらおう、という思いで活動を進めたのでした。

わが国のPTA

今から七十一年前、終戦後七ヶ月

しが済むと、みんなで話し合う。

(5) ある日には、教育映画を観る。

(6) それからまた、子どもの病気に気づかず学校へ行かせたり、ほかの子どもにうつらせたりしないように、子どもの病気を早く見つけることも習う。

(7) 道路の改修、学校衛生、医療設備、学校給食など、子どものためになる仕事をやって貰うように、この会を通じて当局に願う。

(8) この会ではまた、図書室を創る。そうして新しい雑誌や本や新聞の寄贈を受け、子ども達がいろいろな本を読めるようにする。

(9) 子どもの演芸会を催し、入場券を売って、その売り上げは、この図書室の新しい本を買う資金にする。

(10) 子どもの運動会には、お父さんや先生も加わる。入場料はやはり運動場の設備や学校給食施設の資金にする。

(11) お母さんの方は、お茶やお菓子を売って、資金を援助する。

(12) 学校給食はお母さん方が交替で、温かいご飯やお汁を作る。

(13) 校舎は何時も心地よくしておく。それに要る材料だけは買うが、お父さん、お母さん、先生方で働くから余分なお金はいらぬ。

(14) ベンキ屋さんはベンキを一缶、ガラス屋さんはガラス一枚、電気屋さんはスイッチ一個、家庭用品やさんは料理道具一個というように、すこしずつ商人さんから寄付してもらう。

の昭和二十一年（一九四六）三月、日本にPTAづくりを奨めた報告書が第一次アメリカ教育使節団によってもたらされました。

その半年後、アメリカ占領軍総司令部民間情報教育局（CIE）は報告書の趣旨に基づき、文部省に対してPTAの研究と結成を促しています。PTAは「Parents and Teachers Association」の略称です。

昭和二十一年十月当時、文部省社会教育局で視学官をしていた二宮徳馬さんは、その頃の状態を「岐阜県PTA三十年の歩み」の中で、次のように記しています。抜粋して紹介します。

戦前にあった「父兄会」「母の会」

「…たしかにCIEの報告書は、日本にPTAをつくることを推奨しているのだが、原文にも日本語版にもPTAという言葉はどこにも出ていない。日本にとってPTAというのは初耳だし、その知識はCIEから得るのがすべてだった。

ここまで記してくると、日本のPTAはアメリカのPTAをそっくりそのまま移植したのかと思われる人も多いに違いない。たしかに移植したつもりだったのだが、実は移植ではなくて接ぎ木だったのである。と言うのは、日本にもアメリカのPTAと同じくらしいの歴史を持つ父兄会があり、父兄会からやや遅れて始

まった母の会があったからだ。

当時、教育民主化の旗印のもとに、口では発展的解消と称しながら、実は父兄会や母の会にPTAの衣裳をつけさせたようなものだったのである。養分や活力を与えたのは、PTAの精神ではなく、日本の土壌に多年根をおろしている父兄会であり、母の会であったわけ。PTAというのは当時流行った父兄会のカタカナ書きだと思っていた人も少なくなかったし、今でもそう思っている人がある。

PTAの芽生え

さて、CIEからPTAという難題を持ちこまれて、文部省が頭を抱えたのは正直なところ本当だ。自慢話に取られては誠に困るが、私はなぜかしらこれは大事な問題だという感じがしたのは、この頃だと思ふ。

こんな気持ちから、まず省内に受け入れ態勢と言ったらいいか雰囲気と言ったらいいか、とにかく塊より始めよ、というわけで学校教育局の視学官や課長にメンバーになってもらい、省内だけの懇談会を定期的にもつようになった。時々CIEからも加わってもらった。これが母体となつて、翌二十二年の秋に「父母と先生の会」委員会が生まれることになる。文部省としての公的な名称が決まったのもこの頃である。

「父母と先生の会」の最初の姿

米国占領軍のCIEの中に広報室の様な一室があつて、ここでPTAの絵解き資料を作った。アメリカ本国からPTAの資料を取り寄せて、非常に苦心して作ったようだが、今から考えると、このような最初のPTAのイメージアップに、だいぶ将来の問題の種が播かれたのではないかと思う。

六十×四十五cmぐらいの厚紙にすつきりとした線書きの絵が描いてあつて、その下に説明が付けてある。当時は、このような展示一つでも、もの珍しかった。この説明文について私も相談を受けたが、幸い手元にこの説明文が残っているので、少し長いが以下で紹介しておく。PTAが世に出た最初の姿だからである。

(1) 子どもにとって先生は、お父さん、お母さんの次に親しい方だ。

(2) お父さん、お母さんが先生と識り合いになり、先生の教育方針を理解する。先生もまたお父さん、お母さんと親しくなる。そうして初めて、皆が一緒になって、子ども達の幸福を図ることができる。

(3) そこで学校の先生とお父さん、お母さんが全部揃つて、「父母と先生の会」を作る。そうして日を定めて集まる。

(4) その日には専門家を招いて衛生や子どもの心理や新しい教育法など、ためになるお話しを聴く。お話



アメリカのPTAは今年一二〇周年を迎え、六月にラスベガスで記念行事を行いました。（編集部）

この会議の出席者は社会教育関係者が主で、課題の一つとして「学校父兄会の指導について」が予定されていた。PTAが公の会議の議題となつたのは、恐らくこの会議が初めであつたろうと思う。

（次回は、「日本のPTA発足年」です。）

「話そう!語ろう!わが家の約束」運動の具体的な取組

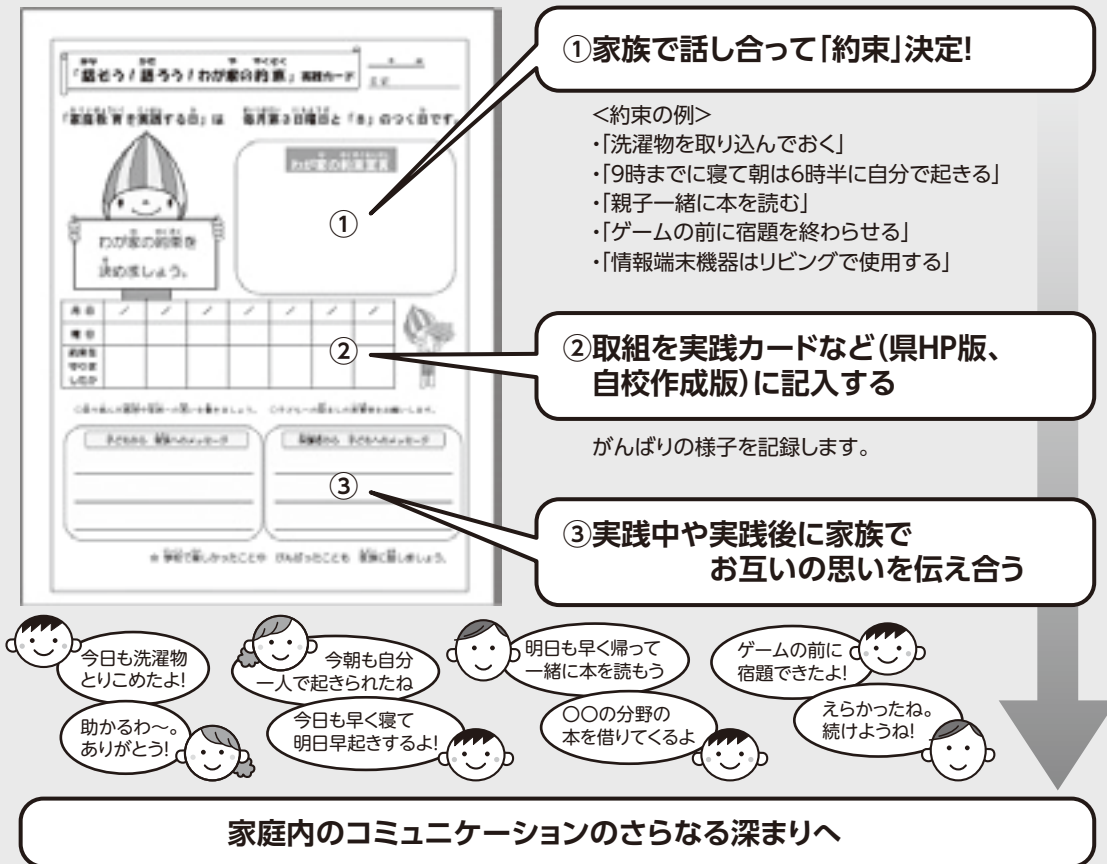
子どもにどんな力をつけたいかを考え、県内の多くの学校が家庭教育学級と同時展開でこの運動に取り組んでいます。

岐阜県家庭教育支援条例が例示する「家庭教育」の9つの項目ごとに、その一例をお示します。

項 目	タイトル
基本的な生活習慣	「朝すっきり大作戦」「学力アッププログラム」「睡眠とメディアに関するわが家の約束」
自立心	「一人一役」「夏休みだよ!家族ごはん」「とことんチャレンジ」「きらりカード」
自制心	「ノーネット 5days」「SNS 使用の約束を家族で作成実践しよう」
善悪の判断	「ネットとの付き合い方」
挨拶及び礼儀	「親子ふれあいカード」「金ぴかげんきウィーク」「あったか言葉」
おもいやり	「家族チャレンジ」「幸せと笑顔の家族」
命の大切さ	「わが家の防災会議」「非常時災害時の約束」「命を守る家族会議」
家族の大切さ	「みんなでハグ・家族でラブラブデー」「家族のふれあいー家庭一実践」
社会のルール	「わが家の交通安全ルール」

※それぞれの取組は必ずしも9項目中1項目のみにあてはまるわけではありません。

「話そう!語ろう!わが家の約束」運動の進め方



お気軽にご相談ください!

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

環境生活政策課 ☎058-278-8752(直通)
西濃県事務所 ☎0584-73-1111(内線219)
中濃県事務所 ☎0575-33-4011(内線210)
可茂県事務所 ☎0574-25-3111(内線208)
恵那県事務所 ☎0573-26-1111(内線208)
飛騨県事務所 ☎0577-33-1111(内線206)

「岐阜県家庭教育支援条例」について

「家庭教育支援条例」が公布・施行されてから2年6か月が過ぎました。すでに県内全域において地域ぐるみで家庭教育に取り組んでいただいているところですが、ここであらためて「家庭教育支援条例クイズ」です!

Q1 岐阜県家庭教育支援条例の特徴は、わかりにくいと言われる家庭教育の内容を具体的に示していることです。全部で9項目ありますが、①に入るのは何でしょうか?

- ①() ②自立心 ③自制心 ④善悪の判断
⑤挨拶及び礼儀 ⑥思いやり ⑦命の大切さ
⑧家族の大切さ ⑨社会のルール

A1 ①は「基本的な生活習慣」が入ります。条例では、「家庭教育」とは、保護者がその子どもに対して上に掲げる事項等を教え、育むこととしています。

Q2 条例では、家庭教育についての関心と理解を深め、積極的に実践する意欲を高めるため、「家庭教育を実践する日」を定めていますが、いつでしょうか?

A2 毎月第3日曜日と8のつく日(8日、18日、28日)です。

各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことを基本としながら、地域全体で家庭教育を応援する気運を醸成することが明記されています。「みんなで家庭教育!」を実践するために次のような取組はいかがでしょうか。

「話そう!語ろう!わが家の約束」運動

この運動は、約束づくりや実践をきっかけに、子どもと保護者が一緒に考え、お互いの気持ちを理解し合ったり、よさを認め合ったりして親子の絆を深められることを願って実践されています。忙しい毎日ですが、子どもに向き合って「声をかける」「ほめる」「共感しながらじっくり聴く」「一緒に活動する」ことで、子どもたちの心の安定が図られると同時に、生活習慣・学習習慣が無理なく身についたとの報告が多数寄せられています。

「話そう!語ろう!わが家の約束」運動の実践例や実践カード、その他家庭教育にかかわる情報をホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

県のホームページでは家庭教育に関わる情報を発信中!ぜひご覧ください!!

一掲載内容一

- ・平成23～28年度家庭教育学級の実践
 - ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅡ(乳幼児期編)」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅢ(小・中学校編)」
 - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てⅣ(次世代編)」
- ほか

岐阜県 家庭教育学級

検索

多様性と向き合い、共生社会を実現する

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

はじめに

対話を重ねる中で、互いの立場を推し量ったり、互いの違いを理解し合ったり、相互理解を深め、共生共存していくことこそ、様々な違いのある人が、共に生きていく「共生社会の実現」には必要なことだと思います。

多様性尊重の教育は、お互いの違いが違和感につながっていき、違和感から対立へ、対立から差別へと転化していくことを防ぐ力を育む教育です。お互いの違いを積極的に理解し合い、共に生きる意味と意義を共有し、誰もが安心して暮らすことのできる社会をめざす「共生社会の実現」をめざしたいと思っています。

このシリーズでは、障がいのある方やそのご家族をはじめ、様々な立場の方々に、「多様性」「共生社会」を切り口に、体験談を交えて提言をしてもらう予定です。今回は、シリーズの第一回として、企画全体をコーディネートする安田が執筆を担当します。

津久井やまゆり園の入所者殺傷事件に思う

昨年七月に起こった神奈川県相模原市にある知的障がい者入所施設

「津久井やまゆり園」での入所者を対象とした殺傷事件は、その残忍な

手口とともに、重度の障がいのある人たちの尊厳を認めない犯人の偏った思想そのものに、言いしれぬ恐怖を感じました。また、事件直後のインターネット上には、少なからず、犯人の考え方に共感を示す書き込みがあったことに、強い不安を抱きました。かけがえのない命を一瞬のうちに奪われた多くの入所者の皆さんやその家族の皆様の無念さを感じる時、この事件を、一部の特別な思想をもった人物による凶悪犯罪として捉えて批評するのではなく、社会の中にじわじわと広がる少数者や社会的弱者を差別したり蔑んだりする思想や、誰にでもある利己的な考え方向と向き合い、二度とこのような事件が起こらないような社会にしてい

くことが重要だと考えています。現在、国内外において、障がいの有無だけではなく、性別や性的指向、社会的出身や国籍、人種や民族など、様々な違いに対して、相互に理解を深めて共生社会を築いていこうとする動きと、異質なものとして、自分たちの国や地域社会から排除したり差別したりする動きが見られます。

今後、社会全体の中で、「多様性」をどうとらえ、どう向き合っていくのかという議論は益々重要なものになっていくことでしょう。また、

識と情報の共有を進めよう」「お互いの意見を出し合って、ぶつけあって、地域でどうしたらよいのか考えていこう」の呼びかけに応じ、第一回の勉強会には、三十名近くの方が集まりました。議論は白熱し、先行きが不透明になりかけた時、あるお母さんが、重い障がいのあるわが子のことについて語り始められました。障がいがあるとわかった時から始まった苦悩と、地域の中で親亡き後もたくましく生きていかなければならないわが子とどう向き合って、

「今」を生きているのか、切々と話されたのです。それまで、被害者、加害者の関係で、議論が進みがちだったのですが、この発言をきっかけにして、様々な違いのある子どもがこの地域で暮らしている現実を受け止め、互いをどのように理解し、共に生きていくのかという地域の住民としての「当事者意識」が会場に広がっていったように思います。すでに、公民館の閉館時刻十時が迫り、解散となった時、先ほどまで、激論を交わした参加者の中から、「また集まろうな」「こうして意見を言い合って考えていかな」「だめや！だめや！ととっても、何も変わらんわ」と、会場を後にされていきま

した。その一年後、その勉強会に再びお招きいただいた時、会場の雰囲気は、こうした私たち大人の議論の行方を「高齢化社会」「超高齢社会」の担い手となるだろう若者や子ども達は見過ごすことはありません。二十

年先、三十年先は、今以上に、国家財政は厳しくなることが予想される中、高齢者にも優しい社会になっていくかどうかは、「今」をどう生きるのかという私たちの姿勢や、学校教育や地域社会の中で、どのように多様性尊重の教育を進めていくにかかっていると思います。

さりげない親子の会話から ―自分事として―

様々な違いを理解し合い、ユニークな存在として相互の存在や尊厳を認め、共生社会を築くために、今をどう生きるのか、大人も子どもも一緒に考えていきたいと思っています。

先日、高山に行った時、どのバスに乗っていいのかわからず困っている外国からの観光客がおられました。すぐ近くの親子が、それに気づき、お互いに顔を見合わせ、簡単な打ち合わせをした後、笑顔で観光客の方に近づき、お母さんは「こんにちは、何かお困りですか?」、子どもは、「Can I help you?」とそれぞ

れ尋ねました。その動きはとても自

見事なほどに一変し、和やかになり、みんなの気持ちが一つになった印象を受けました。また、母親についてきていた、発達障がいのある高校生本人が勉強会に飛び入り参加してくれて、義務教育時代、長い間、不登校で苦しんでいた経験や、今、音楽に目覚め、高校でバンドを組んで仲間と楽しくやっていることなど、熱く語ってくれました。

不寛容な時代だからこそ

日本政府の「人権教育・啓発に関する基本計画」では、女性子ども・高齢者・障がい者・同和問題・アイヌの人々・外国人・HIV感染者／ハンセン病患者等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等・インターネットによる人権侵害・性的指向に係る問題などの人権課題が位置づけられています。

多様性尊重の教育では、これらをばらばらに学ぶというのではなく、さまざまな課題をつなぐ概念や枠組みを学びつつ、自分との関わりの中で、具体的に考えていくことを大切にしていくこととなります。「不寛容な時代」だからこそ、地域で、学校で、家庭で、「多様性重視の教育」や「多様性と向き合う議論」が広がることを願っています。

然で、素敵な光景でした。その後、観光客の方が、行き先を「白川郷」と伝え、無事、乗り場に案内することができました。外国から来て、日本語案内が分からず困っている人を見た時に、傍観者としてではなく、何かできることはないかと親子で話した結果の行動でした。

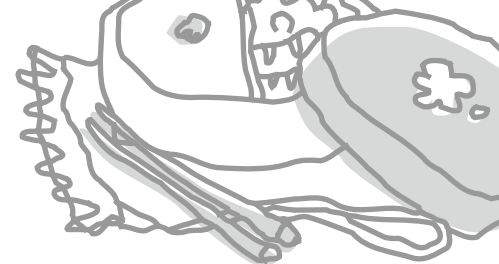
私の友人が、ある日、お子さんと買い物に行く途中、交差点で、二人連れの聴覚障がい者を見かけたそうです。信号を待っている間、その二人連れば、とても楽しそうに手話で話をしていたそうです。そして、気が付くと、お子さんが、小さく、手を動かしているというのです。「どうしたの」と聞くと、お子さんは、

「だって楽しそうだもん。ちよっとまねっこしているの。何を話しているのかなあ」と答えました。友人が、「あまり、じろじろ見ちゃだめよ」「真似なんかしちゃだめ」と言おうと思った瞬間、視線を感じた聴覚障がい者の方から、お子さんに向かって、笑顔を返してくれました。そして、ゆっくり大きな口を動かしながら、「こんにちは」と手話であいさつをしてくれたそうです。

その日の夜、楽しかった交差点でのやりとりを思い出しながら、お子さんは、「私、手話覚えたいなあ。手話で話してみたいよ。お母さん



お弁当の日



高山市立山王小学校PTA

「弁当の日」活動

●学校について

山王小学校は、『春の高山祭り』で有名な日枝（ひえ）神社のすぐ近くにある学校です。その日枝神社を「山王さま」と呼んでいることから校名がつけられたといわれています。

現在の児童数は五三三人の学校です。

●活動の経緯

わたしたち山王小学校PTAでは、平成二十二年より、五年生と六年生の親子を対象にして「弁当の日」の活動を継続しています。ねらいは、「弁当を作る大変さを実感し、毎日作ってくれる人（食に携わる方々）に感謝する」「親子の絆を深める」というものです。

年三回、九月～十二月頃の期間に、社会見学等の学校行事の関係で給食がない時を利用し「弁当の日」を実施しています。

PTAでは毎年、児童と保護者から事後アンケートを取り、感想などを集計してきました。「弁当の日」をスタートさせた当初は、児童の大半は「楽し

かった、また作りたい。」と、弁当作りに意欲的でした。しかし保護者からは「良い取組みだが、かえって手間が増え、負担を感じる」と言う意見がありました。

その意見を受けて、確かに保護者の方々も、平日の朝の一番忙しい時間帯に子どもと一緒に弁当を作ることは大変だという結論に達しました。そのため家庭の負担をできる限り軽減する必要があると考え、三年前に次の三点の提案をしました。

①元々給食のない日を弁当の日に充てる。

②子は楽しく、親はもつと楽しく。親子一緒に協力しながら弁当作りに取り組む。

③「計画と実施表」をもとに、無理なく各家庭にあった計画を親子で一緒に立て、今後の反省や自分の成長を見直すために記録として残す。

計画の内容は、各家庭や児童の年齢によって、できることとできないこと、関わりに違いはありますが、

*メニューを考え、一緒に買い物に出かける。

*親が作る様子を見ながら、自分ができるところを見つける。

*一品作ってみる。

*自分で弁当箱につめる。

*全て自分で作る。

*弁当箱を洗う。

など、自分が実行できそうな計画を立て、それを実行できたかどうかを自分で評価し、感想を書くようにしてい

保護者と子どもの感想

家族とのコミュニケーションについての感想では、「ただ作るのではなく、ひと手間加える大切さや盛り付けで見栄えがかわること、栄養のバランスや調理手順の重要性を親子で話し合えた。」「中学生のお兄ちゃんの弁当も一緒に詰めてあげると『おいしかった』と言ってもらえて、うれしかった。」などの感想があり、普段のお手伝いが増え、家の人と話すことが増えたという子が大半でした。また「反抗期に入り会話が少なくなっていたが、弁当作りがきっかけとなり会話が増え、笑い合えた。」という嬉しい感想もありました。

心の成長については、「弁当を自分で作ってみて、弁当を作ってもらう家族への感謝や感謝される気持ちを感じることができた。そして家族の一員としての自覚が持てるようになった。」「早起きは苦手だが、弁当の日は『早く起きなきゃ』と自分で起きられるようになった。」と言ったように子ども自身が自分の成長を感じる感想が聞くことができ、「弁当の日」を実施してよかったと思っています。

保護者への願い

山王小学校の「弁当の日」の特徴は、しほりや負担を少なくし無理なく行うことです。

保護者の負担が少なくなれば、子どもとのコミュニケーションがとりやすくなり、弁当を作る共通の作業を通して話題や会話が増えていくと思っています。それでも、時間の余裕がない朝の時間帯に段取りや調理を失敗して作業が遅くなることがあるかもしれません。そんな時でも怒らず笑顔と一緒に弁当を作ってほしいと思っています。

さらに、子どもたちに弁当の作り方やコツなどを教えると、意外に上手に弁当を作るものです。これから親子で楽しく無理なく弁当を作っていたいただきたいと思います。

●今後の弁当の日

最初は、買い物に出かけたり、弁当箱を洗ったりなど簡単なことから始める家庭もありますが、それも立派な弁当の日だととらえています。

今年度も、子どもの力や家庭の状況に応じた内容で計画し実行する弁当の日を行いたいと思っています。もつと親子で楽しんで弁当の日に参加してもらうために、時間に余裕がある休日に家族の弁当を作る「弁当の日」や、昨年紹介されていた、おにぎりの具材などを工夫する垂井小学校の「おにぎり弁当の日」などを参考に、これからも少しずつ改善しながら、弁当の日を続けていきたいと考えています。



保健室ノート

●御嵩町立向陽中学校
養護教諭
石川 理恵

「鉄・カルシウムを摂ろう」 スーパー食育スクール事業

I. はじめに

向陽中学校は、生徒数二八六人の中規模校です。学校では、「自ら考え、すすんで実践し、共に高まる生徒」の育成を目指し、「自律」と「呼応」を合言葉に、生徒たちの指導にあたっています。

平成二十八年度に本校は、文部科学省並びに岐阜県から「スーパー食育スクール事業」の指定を受けました。白田典子栄養教諭が中心となって行った実践を紹介します。

II. スーパー食育スクール事業

◇本校生徒の課題

・健康状態の自己認識が低い。

育むことにもなりました。

二年生の学級活動では、「自分の朝食を振り返ろう」と、栄養教諭が学級担任と一緒に授業をしました。「ちゃんと朝ごはんを

食べて、午前中のエネルギーを確保したい。」「今まで牛乳を飲んでいなかったけど、飲みやすくてカルシウムを摂ることができると思う。」「時には自分で作ろうと思う。」「などと、生徒の変容につながりました。

お弁当の日には、「鉄・カルシウムを意識して、おひたしやふりか

・朝食欠食率が高い。
・主食だけの朝食が多い。
・鉄・カルシウムの摂取量が不足している。
・貧血傾向の生徒が多いと思われる。

成長が著しい中学生期には、丈夫な体づくりのために鉄やカルシウムなどの栄養素が必要となります。しかし、学校生活の様子では、偏食する傾向が見られ、部活動や行事の際に貧血症状を訴える姿がありました。鉄とカルシウムの摂取を中心に栄養バランスのとれた食習慣を形成できるよう、取組を行ってきました。

一、食生活を改善する意識向上のための取組み

(一)ヘモグロビン・骨量の測定

(二)食生活・生活習慣アンケートの実施

(三)食育講演会の開催

ヘモグロビン・骨量の測定で自分の数値を知り、「ヘモグロビンが増えると部活動

けにこまを使ったり、卵焼きにチーズを入れたりとバランスを考えて作ることができた。」「など、多くの生徒が工夫していました。

三、望ましい食習慣の継続を促す取組み

(一)「健康を考える日」の実施

(二)食育リーフレットの配付

(三)食習慣・生活習慣アンケートの分析

「子どもが家で鉄・カルシウムのことを話してくれるから、母として考えることができる。子どもから発信があると食事を変えやすい。」と、生徒を通して家庭の変容にもつながりました。

アンケートでは、健康のために食事は

などでの体力向上につながると思うから、これからの学習や部活動をがんばりたい。」「骨量を多くして、身長を伸ばすためにカルシウムをたくさんとれるようにしたい。」「と、意識の高まりにつながりました。

二、栄養バランスのとれた食生活を形成するための取組み

(一)授業・給食時間の指導

(二)鉄分・カルシウム強化学校給食の実施

(三)保護者への啓発、食育学習会

「PTA家庭教育学級主催の親子料理教室」

(四)お弁当の日の実施

一年生生徒の考案した鉄・カルシウム摂取を目指した料理は、「中学生学校給食選手権」で優秀賞を受賞し、御嵩町の学校給食にも採用されました。実践が、形となって生徒に返ってくることは、彼らの食に対する意識の向上だけでなく、自己肯定感を

切だと思う生徒、栄養バランスに気を付けて食べている生徒、朝食のおかずの品数や鉄とカルシウムの多い食品を意識して食べている生徒、毎日朝食を食べている生徒が増えました。

III. おわりに

今後も、生徒たちが丈夫な体で健康を保つていくためには、この食育事業の成果が糧になります。正しい生活習慣を身に付けられるよう、食育だけでなく歯みがきや、「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち」など、多方面に渡る指導もあわせて行っていくしたいと思います。



pleasure イラスト&クイズ



P.N. 青虫に食べられるリンゴ (土岐市)



P.N. マアラ (高山市)

QUESTION -2

ラクダ、サイ、カメが
お店にやってきました。
何を買いに来た
のでしょうか？

出題・高木琉ノ介 (瑞穂市)
〈答えは41ページ〉

二人の師

飛騨市立古川中学校 校長

向川原 眞郷

教員採用試験を合格し、最初に赴任したのが三十五年前。それも、我が母校、飛騨市立古川中学校でした。その後を合わせ、計四回赴任し、現在はその校長として勤めています。

私には、中学から始めたサッカーが、自分の道を方向付けた大きな出会いでした。中学・高校・大学と競技に没頭する中で出逢った二人の師には、今でも大きな恩をいただいたと頭の下がる思いで一杯です。中学時代にご指導いただいた山下剛司先生、大学時代にご指導いただいた大淵正雄先生のお二人です。残念ながら、すでにお二人とも他界されてしまいましたが、このお二人の先生との出会いがなければ、今の自分はないと思っています。当時の印象に残る場面を少し紹介させていただきます。

中学に入ってサッカーを始め、中二の時に山下先生が赴任してみえました。先生が顧問になってからは、練習の様子がガラッと変わりました。とてつもなく厳しく、練習の辛さは学校一の部活動になりました。そんな自分たちにも最初の大会がやってきて、地区大会を制し、岐阜の強豪チームとの対戦が巡ってきました。これを勝てば来週は準決勝です。見事勝ち抜き、意気揚々と帰ったことを覚えています。晩秋の大会ですが飛騨では初冬といってもいい時期です。案の定、月曜の朝を迎えると、ちよつと早めの雪がグラウンドに積もっていました。毎日七時三十分から朝練がありました。この日は寒さに気持ちも負け、いつもより遅れてグラウンドに出ました。すると、先生がゴール前の雪をトンボで掻いていらつしやるではありませんか。みんなびっくりして、飛んで出て行きました。なんて叱られるかと覚悟を決めていたのですが、何も語られずそのまま一緒に作業をして、

練習を始めました。未熟な自分たちは、勝ったことにいい気になっていたことは間違いありません。そして今日ぐらい朝練がなくても…と思っていたことも間違いありません。今思うと、そんな私たちにどう甘さを伝えるのかを考えてのことではなかったのでしょうか。語らずとも背中ですべて示して下さったのだと強く印象に残っています。

高校卒業後、教員を目指して岐阜大学へ進学し、大淵先生に指導を受けました。大学三年の夏に怪我をして、東海学生リーグに出場できませんでした。チームは二部リーグに転落し、私の四年生の競技ステージは、二部リーグとなりました。なんとしても一部リーグに戻るため、最後の学生生活のエネルギーを傾注しました。結果、入れ替え戦に出場権を得ることができ、一戦目を僅差で勝つことができました。あと一つで復帰がかなう二戦目の前日、土砂降りの大雨のためグラウンドでの練習ができませんでした。調整練習くらいで明日を迎えるのかと思っていたら、体育館でゴール前の崩しを練習しました。それは今まで経験したスタイルの練習ではなく、相手をくすす論理とそこに必要な技術（自分たちでもできる基本技術）を組み合わせ、そのイメージを共通理解する練習でした。ボールを運ぶ球筋を皆が理解しながらの練習はまさに頭の中のトレーニングだったと思います。結果、試合では五得点して大差の勝利を収め、一部への昇格を叶えました。個人の卓越した感覚や能力に頼るのでなく、原理原則を共通理解し、組織的に闘うことで、チーム力を発揮できることを学びました。

今、学校現場の舵取り役として勤めています。熱い思いを背中ですぐに語れる教師であること、そして原理原則を基にした組織で向かう学校であることで、生徒や保護者・地域から信頼を得られる学校づくりに努力しています。



P.N. 37458 (揖斐郡)



P.N. 既 (大垣市)

QUESTION-3

黒い犬と白い犬がいます。全然ほえない犬はどっちでしょう？



出題・赤堀怜希 (岐阜市)
《答えは41ページ》

あなたの笑顔は素敵だよ

子育て半生記

岐阜市立市橋小学校PTA会長 武井 満久

私の母の口癖は『あなたは、やれば出来る・何でも出来る』でした。「しつけ」で怒られたことは、自慢ではありませんが何度もあります。危ないと言われたことをやり、片付けなさいと言われた物を片付けずに怒られた事は、数え切れません。しかし、勉強やスポーツ等で出来なかった時に、怒られた記憶はありません。また、新しいことに挑戦しようとした際には、必ず口癖の『やれば出来る』と言われました。

今、思い返すと不思議ですが、母親に言われると何の疑いもなく、自分自身も『何でも出来る』気になっていました。きっと、実際には良い結果にならなかった事もあると思います。また、挑戦してみたものの、出来ない事もあったと思います。しかし、そんな時は例の口癖です：『やれば出来る』。何の疑いもなく、『いつか出来るようになるんだ』と信じ、何度もあるまで自分から練習していました。私にとって、出来ないことは何も恥ずかしい事ではありませんでした。いつかは出来るようになる、自分は何でも出来る、と信じ切っていたからだと思います。

今、思い返してみると、『あなたは、やれば出来る・何でも出来る』この母の口癖が、自分は何でも出来る、大袈裟に言えば凄い人間だ、と思わせてくれていたのだと思います。また、『自分の事を信じてくれていい』ように、子に渡すことが出来ません。しかし、私が両親から受け取ったプレゼントは絶対に我が子にも渡したく思っています。この先も頑張ってプレゼントしようと思います。

それと同時に、私からのプレゼントも渡したく思っています。それは、『笑うこと』『ユーモアを持つこと』をプレゼントしたく考えています。何気ない日々の生活も常に素敵なものに思えるよう、笑うことで何事も楽しんで欲しく願っています。生まれてくる時も、我が子には、いつも笑っていて欲しい、いつも笑顔でいて欲しい、笑顔が素敵な子になって欲しい。そんな思いも込めて名前も付けました。

私には大事だと思っています。どんなに辛い時でも笑うことで、耐える強さではなく、乗り越える強さを身に
る人がこんなにも近くにいます」と、教えてくれる言葉だったとも思います。
そして、自分も親になり思うのは、この母の口癖は、私をやる気にさせるためだけの嘘ではなく、本当に私の事を『あなたは、やれば出来る・何でも出来る』と信じていた本心の言葉だったと思います。そう思えるのは、私も今、我が子の事を信じて疑わないからです。心の底から、この子の未来は決まっていらない。本人の思い一つで、人生がどのようににも変わる、素敵な未来はあると信じているからです。
今、親になり振り返ると、私は親から貰った最大のプレゼントは「自己肯定感」だと思います。大人になり、親になり得た知識ですが、私は「自己肯定感」が高いから、人生を楽しく送れているのだと思います。悩むこと・苦しい事があっても、自分の事を大切に生きている事が出来ていると思います。
両親はきっと、「自己肯定感」という言葉を特別意識し、私を育てたわけではないと思います。しかし、結果として私は、両親の手により自身の中に高い「自己肯定感」を持たせて貰えました。小さい頃から『あなたは、やれば出来る・何でも出来る』と、私に伝え続けてくれたお陰だと思います。
この私が貰ったプレゼントを、我が子にも渡したく思っています。ただ、これが難しいです。我が親
着けて欲しいという思いもあります。また、笑顔を絶やさずにいれば、困った時にきっと助けてくれる人もいます。そのためには、『あなたの笑顔は素敵だよ』と、私も口癖のように我が子の笑顔を見る度に伝えることにしています。我が子に、笑うことは素敵なことだと伝え、また自分の笑顔に自信を持って欲しいと思っています。笑うことや自分の笑顔に自信を持てれば、自然と何事も楽しむことができ、笑顔が増えるのではないかと思っています。
これから、我が子が巣立つまでに素敵なお友達が出来るよう、私自身が笑い笑顔を見せ、子の笑顔を生み出せるような親になれるよう努力し、我が子と共に笑い楽しみながら歩んでいきたいと思っています。

PTAふれあいニュース

vol.6

子ども・先生・保護者・地域の方々と創る「チームかすが」

揖斐川町立春日小学校PTA

平成二十八年度、春日小学校は創立三十周年の節目を迎え、「表現力」「活用力」「判断力」を合言葉に「チームかすが」の一員として活動してきました。

十一月、「創立三十周年を祝う会」が行われ、春日小を卒業した三名の先輩から、歴史、学校生活や夢について話を聞き、今がんばるとよいことを助言していただきました。その後、全校児童一人ひとりが自分の夢を発表しました。自分の言葉で堂々と発表する姿はとても立派で春日小の歴史を担う頼もしさを感じました。

十二月には「親子しめ縄づくり教室」を行いました。春日小では、毎年五月、岐阜の棚田二十一選に認定されている貝原棚田にて地域の方々が講師となり、全校児童が田植えをします。十二月には、この稲を用いて親子でしめ縄作りをします。しめ縄を



作り終えたら、全校児童が稲刈りしたお米を精米にしてもらって児童が握ったおにぎりを、皆でおいしくいただきます。また、保護者からは地元産のゆずを使ったゆず湯がふるまわれます。

今後も児童・先生・保護者・地域の方々が一丸となって伝統の技を傳承していく活動を続けていきたいです。

親子で取組む「清掃活動」

大野町立東小学校PTA

東小学校PTAでは、親子で組む清掃活動として、六月に「親子奉仕作業」、八月に「草取りボランティア」を行っています。

親子奉仕作業では、保護者が普段子どもでは手の届かないところを掃除し、親子で協力しながら掃除を行うことで、掃除の楽しさ・大切さを共有し学校美化を推進することができています。

草取りボランティアは、主にグラウンドの除草作業です。除草作業の目



的は、新学期から始まる運動会の練習を子ども達が怪我なく気持ちよくできるようにすることです。八月最終週に、夏休み期間に成長した草を親子で除草作業を実施し、子ども達は、秋の運動会に向け元気いっぱい練習し、毎年すばらしい運動会を行なうことができています。

このような活動を通じ、今後も子ども達の笑顔と更に楽しく・安心・安全な学校生活を過ごせるような学校づくりサポートする活動取組みをしていきます。

「親子ふれあい活動」に親子そろって

池田町立宮地小学校PTA

宮地小学校では、家庭教育学級と学年委員が中心となり、毎年「親子ふれあい活動」を行っています。

昨年度は、一年生～五年生はドッジビー、転がしドッジなど、ボールを使ったゲームをやりました。親と子の混合チームで、お互いに作戦など考えてゲームをしましたが、親は子どもの動きについていくのが大変でした。



また、六年生はミルクレープ作りをしました。作る役割を分担して、飾り付けをするなど、お母さんや友達とつしよに作りました。初めて作るミルクレープでしたが、美味しくできて、楽しい活動となりました。

今年度は、福祉などの体験やお話を聞く機会を設けたり、学年の枠を取り払い、親子で好きな体験教室に参加するなどの活動を計画しています。



親子で汗を流すPTA活動

揖斐川町立揖斐川中学校PTA

揖斐川中学校では六月に「親子で学ぶスポーツストレッチ&ヨガ教室」九月に「親子ふれあい資源回収」を実施しています。

スポーツストレッチ&ヨガ教室では、町のスポーツ施設で指導していただける方を講師に招き、ポーズの意味や体のどの部分をリラックスさせるかなどを丁寧に教えていただいています。

また、参加した親子で互いのポーズをチェックしたり、先生方と保護者とが会話をしながら取り組んだりと、互いのコミュニケーションも和



気あいあいとした雰囲気の中、深まります。じわじわと汗が出るくらい体が温まり、それと同じように心も温まる研修となっています。

親子ふれあい資源回収は、それぞれの地域で保護者と子どもたちが共に汗を流しながら、ボランティアの意味や取り組みのすがすがしさを味わえる活動となっています。





武士道ジェネレーション
菅田哲也 著
文藝春秋

各務原市立那加第三小学校PTA会長
森 涼



『大きな拍手を浴びながら、互いに構え、剣先を向け合う。この場所で再びめぐり合い、この相手

と戦う、喜び。最高の舞台で迎えた、最高の相手。この時代を共に生きる、二人といたい、好敵手さあ、始めよう。私たちの戦いを私たちの時代をー。』武士道シリーズ四部作の第一巻、最初の文章です。本屋で興味があるタイトルを見つけたので、ページをめくったところ、始まりの文章を読み、鳥肌が立ちました。

内容は、最初から最後まで剣道剣道剣道の青春部活小説です。宮本武蔵に憧れる主人公が、部活の仲間や、ライバル剣士と切磋琢磨しながら成長していきます。主人公は基本に忠実に稽古をし、武道として剣道技術を磨きますが、その一方で、あくまでも技術の向上に楽しさを求める部活の友人、競技に勝つために創意工夫を凝らし、新しいことに積極的に取り組む他校のライバル剣士、多様な価値観の中で、主人公は自分の信じる武士道に向かい真つすすみます。部員には三年生になっても試合に出れない補欠選手もいますが、共通の目的に向かい、登場人物の一人ひとりが一生懸命に練習に取り

組んでいて、清々しく感じます。学生生活を通じて、同じ時間を共に練習したことは、かけがえない思い出となり、必ずしも試合に勝つことだけが全てではないと実感します。

また、何度も稽古の様子が細かく記載されているのですが、毎回の場面では欠かさず「先生に、礼：ありがとうございます：神前に、拝礼：お互いに、礼：ありがとうございます：最後に指導者の周りを囲んでアドバイスを求める：」記載があり、礼節を尊重する態度を日々養うことの大切さに気付きます。

高校三年生夏の全国大会、主人公は剣道部の代表として個人戦決勝の大舞台に進み、部員や先生の応援を受け、中学三年生の全国大会決勝で勝つことのできなかったライバルと、高校生活最後の試合をします。剣道に対して全く異なった価値観を持つ二人ですが、激しい試合の中でお互いを認め合うようになります。

最終章にて、幼少から通いつけた道場が後継者問題のために、突

きみたちにおくるうた
〜むすめたちへの手紙〜

バラク・オバマ「文」、ローレン・ロング「絵」、さくまゆみこ「訳」
明石書店

美濃加茂市富加町中学校
組合立双葉中学校PTA

山本 雄郎



本との出会い
この本は小学校を卒業する生徒の皆さんへ卒業生の保護者たちで読み聞かせを行った絵本です。

私は五年前から読み聞かせボランティア活動をしている縁で、卒業生への読み聞かせを行うことになりました。読む本は保護者で話し合い、図書司書の方のアドバイスもあり、卒業の想い出になるよ

う保護者の想いが伝わり、読み聞かせ後に子ども達が読み返せるよう図書館の蔵書より選びました。また子ども達に一方的に想いを伝えるのではなく、子ども達の「気づき」のきっかけになるよう、読み方・伝え方も話し合い、一人の親としての想いが込められたこの本に出会いました。

(毎月一回の読み聞かせを始めたことで現在は父親だけの読み聞かせボランティア「オヤジぶんぶん」となり、夏休みの「怪談絵本の夕べ」と十月三日(とうさんの日)の年二回父親だけの読み聞かせ会を実施しています。)

お勧めの理由

この本は第四十四代アメリカ合衆国バラク・オバマ大統領が自身のむすめたちへ宛てた手紙となっていますが、私は世界中の子ども達へのメッセージと感じました。

また大統領が自身の子ども以外の子ども達へこの本で読み聞かせをしていることも知り、重責を担う立場の方が子ども達へどのよう

なメッセージを伝えているのか興味を持ち読むことになりました。

この本は十三人の歴史上の人物が取り組んできたことに注目し、子どもたちへ次の事を伝えようとしています。

- ①子ども達が過去の偉人と同じような大きな力(才能)を秘めていること。
- ②その力は自分だけではなく、多くの人にも影響を与えられる人になれること。
- ③その未来をつくるのは自分自身であること。
- ④そんな子どもを親は応援し続けること。

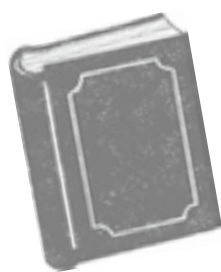
また文章以外の絵からは偉人達にも子ども達の頃があり、いろいろな困難を乗り越えた姿と、自身の夢(目標)を叶え、多くの人たちに影響を与えている様子が描かれています。

私は当初、育児に深く関わらない父親でしたが、十二年前に長男が登校できず、家族で深く長く悩んだ時期がありました。しかし学

然継続が困難になります。社会人になった主人公が恩師から教えを受け継ぎ、道場の子どもたち生徒にどう伝えていくかが物語のハイライトです。自分が道場にて教わったことを継続し、次世代に継承していくことの大切さを実感します。

『信じたこの道を、わたしたちは歩んできた。かけがえない出会いがあった。心震えるような学びが、骨身を削るような試練があった。先に進むためには、避けられない別れもあった。しかし今、来た道を振り返ることはしない。命ある限り、わたしたちは進まねばならない。この武士道を、続く者たちに、伝えなければならぬー。』

本書最終ページの文章です。私は、登場人物達から元気を貰うとともに、大切なことを思い起こしました。

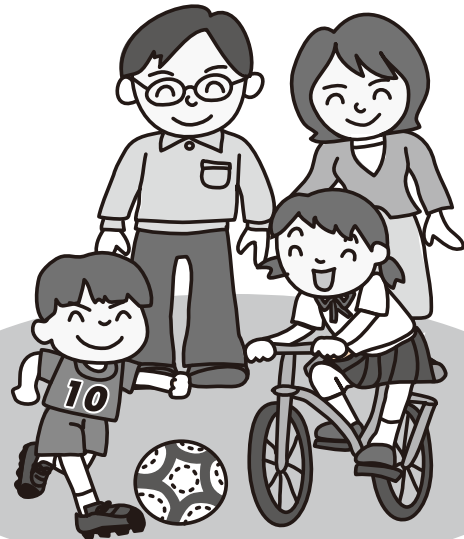


校・先生方・地域・同級生や上級生などの様々なご助力により、家族が想定していた解決方法とは全く異なる方法で簡単に解決できました。

子どもは親が知らないところからいろいろな方から影響を受け、学び成長していくことをその時初めて知りました。その時から自身の価値観や考え方を改めると、子ども達へもそんな影響を与えられる人になってほしいと感じるようになります。自身が今、活動している原点であることを、この本を読んで思い出すことができました。



PTA²⁴hour



PTA24保険の特長

1. 岐阜県 PTA 連合会の団体契約割引(25%)があります。
2. 児童・生徒タイプは疾病入院補償をお選びいただけます。
3. ご加入の方は、医療・健康相談など生活サポートサービスが受けられます。
4. 日常生活の賠償事故の補償は **ご家族も対象**です。
5. 10 万円以下のおケガの請求には原則として**診断書は不要**です。
6. 変更等お申し出がなければ**卒業年まで自動継続**にてご加入いただけます。
7. **教職員の方も家族タイプにご加入**いただけます。

今からでも申込みできます。
PTA24 保険事務局までお問い合わせください。

PTA24 保険事務局
TEL 058-240-2022

顔を見て会話ができる…夕食の時間

美濃市立藍見小学校PTA母親委員長 村瀬 紀子



我が家は、夫婦と高二・小六の息子二人の四人家族です。「家の仕事を何か一つやって欲しい。」「早寝早起きの習慣をつけて欲しい。」など、私からの要望はいろいろありますが、約束事にしたことはなく、見守るだけになっていますのが現状です。

そんな中で一つだけ「食事中はテレビを見ない」これが、唯一思い当たる約束事です。テレビをダイニングに置いていないので、見ることができないわけですが、特に不満はないようです。

食事中はそれぞれが学校の話をして、話すばかりで聞く人がいない時、疲れすぎて食べるだけの時、悩みを聞いて思ったことを言い合っていたら、長い時間がたっていた時…と毎日いろいろです。明るい時も、重い時もありますが、この時間があるって、私たちの信頼関係が生まれているのかなと思います。

学校でがんばっている分、家ではリラックスして何でも言い合える、そんな食事の時間をこれから大切にしていきたいです。

村瀬家の巻

70



話そう!語ろう! わが家の約束

我が家は、私たち夫婦と高校一年生の長女、中学二年生の次女、保育園年長の三女の五人家族です。女の子ばかりなので家の中はとても賑やかです。私が大切にしてきた我が家の約束をご紹介します。

一、会話をすること

子どもの成長に接する喜びや楽しみは何ものにも代え難いものです。食事中にTVを消すことで会話が弾み、楽しく食事ができ、会話を増やすことで家族の絆が深まり、何でも話せる家族だと思います。今後も家族との会話を大切にしていきたいと思っています。

二、あいさつを自分からする

「おはよう」「こんにちは」などの当たり前のあいさつは、する方もされる方も嬉しくなり、今日も一日がんばろう!という気持ちになります。誰にでも自分からあいさつができるようになってくれることを願っています。



宮田家の巻

71



大垣市立南中学校PTA会長 宮田 直人

会話と挨拶

★子の思い

わたしの家族

岐阜市立長森北小学校

三年 平工芽奈

わたしの家は、わたしとお父さん、お母さん、お姉ちゃんの四人家族です。

わたしは、いつもの家族の会話が大好きです。その日にあったことを言い、みんなでアドバイスをし合います。たまに、とてもおもしろくせいのあるアドバイスもあります。おもしろい話の時には、みんな大笑いをします。笑い続けて止まらない時もあります。

わたしの家族は、とてもなかよしです。イオンなどのお店でなかよく買い物をして、たまに二つに分かれて、それぞれ行きたい場所に行きます。そうして、買い物がおわったら、見せ合いをします。びっくりする物の中にはあります。でも、そこにせいがたくさんあっていいです。外で食べる時によく

行く店は、おすし屋さんです。いつもたのむものは、同じです。お父さんとお母さんは、オススメをたのみます。

わたしは、この家族に育ててもらったかんしゃと楽しい生活を送ることができるうれしさでいっぱいです。勉強やお手伝いをしたいです。家族のみんな、ありがと。

企画委員としてがんばりたい

中津川市立落合小学校

六年 市岡花

私は企画委員長です。企画委員長は学校のリーダーです。行事や取り組みのスケジュールを決めたり、朝玄関前であいさつ活動をしたりします。私は五年生の時にも企画委員をやりました。その時に、六年生の委員長さん、副委員長さんが堂々と司会をする姿を見て、私もあんなふうに関会をしたいなと思いました。

最近一年生が入学してきました。元気いっぱい的一年生は、全校の

中で一番よいあいさつをしてくれます。けれど高学年の人は話しながら通り過ぎたりはすかしくて声が小さいなど、あいさつのお手本にはなれない姿もあったので、私はそこを直して、落合小学校のみんなのあいさつが増えてほしいと考えました。

そのために私は「ポイント放送」と言って、全校で一番よいあいさつの人にポイントを聞くことを企画委員会で提案しました。「○○さんの意識しているあいさつのポイントは何ですか。」「口を大きくあけることです。」「このような内容を放送で発表します。」

私のこの提案にみんなが賛成してくれました。ポイント放送をしたことで、よいあいさつが増えてきています。私たち企画委員だけでなく、先生や友達にまでよいあいさつが広がってきました。

このようにして落合小学校の宝物「あいさつ」をもっとよくしていきたいと思っています。他にも今までにやったことのないような

活動をして、さらにすてきな学校にしていきたいです。

思いをつなぐ

大垣市立江並中学校

三年 前刀奏斗

「三年生、二年生、一年生の縦のラインをつなぐ」。これは、今年度の前期生徒会スローガン「つなぐ」に込められた願いの一つです。

一、二年生の時、僕たちの学年では、仲間のよさを見つけて紙に書き、相手に伝える「よさ見つけ」という活動を行っていました。一年生の時は「かがや木」、二年生は「はぐく美」という名前でした。この活動を行うと、みんなが仲間の頑張りを見つけようとするので、互いに関心をもつことができました。

この「よさ見つけ」のおかげで、クラスで仲間とのつながりを深めることができました。

しかし、クラスでの横のつながりを深めることができたものの、学年を越えた縦のつながりを深めることができていないと感じ、改善していきたいと思っていました。

そこで僕は、よさ見つけやボランティアなどの普段の取組を通して、学年を越えた縦のラインをつなぐために、前期生徒会長になりました。そして、今、執行部の仲間と「ニコストインパクト」という活動を計画、実施しています。これは、毎月二十五日に各クラスの「ニコニコストーリー」から選

ばれた最もインパクトのある内容を全校で紹介し、よい姿とその思いを全校で共有するものです。

例えば、四月にこのようなことがありました。登校中のごとです。自転車に乗って横断歩道を渡っていた一年生が、バランスを崩して倒れてしまいました。横断歩道を先に渡りきっていた三年生が、倒れている一年生に気づき、面識のない後輩でしたが戻って助けたそうです。そのやりとりを見ていた三年生が、その仲間のよさを「ニコニコストーリー」として、投稿しました。

後日、執行部が助けた三年生にインタビューして思いを聞き取り、

★親の願い

ものごと

可児市立今渡北小学校

平成二十八年PTA会長

本川晃子

「やっぱりこの十二年度の育て方

給食中の放送で、紹介しました。この活動を通して、温かい心が全校に広がることを願っています。

今年、江並中学校は創立五十周年を迎えました。仲間と意思をつなぎながら、江並中学校の「新しい時代」を築いていきたいです。

は間違ってたかった。」と、出し抜に主人が私に言いました。事情もつかめず何のことかと詳しく聞くと、どうやらわが家にメンテナンス業者さんと呼んで家の不具合をみてもらった後、その業者さんの帰る時に、小六長男が自ら「ありがとございまして」と業者さんに頭を下げたのだそうです。

それを見た主人がその時の感想を帰宅直後の私に伝えてきたのでした。

なぜでしょうか？

大垣桜高校 まんが研究部

なんだかんだって大好き。



逆さ言葉

ママのパパとパパのママ

出題・安藤央菜（本巣市）

いる長男を見つめながら主人が私に言いました。

また別の日、PTA会議のために小学校へ出向くと、長男の以前の担任の先生が私の顔をみて、そういうえば、と教えてくれました。「Kくんすごいですよ。運動会後はふつう気分が高揚して気付く子はあまり居ないので、Kくんはみんなが出て行った後のクラスに残って、みんなの椅子をきちんと揃えていたのですよ。なかなかできない事です。」とほめてくださったのです。

これらの出来事で私が何よりうれしかったのは、勉強というものさしだけでなく、誠実さ、礼儀正しさなど、決して数値では測れない視点で評価してもらえ環境が長男にはあるという事でした。

世の中が就職氷河期と言われた頃の話。

当時私は大学四年生で就活数十社連敗中。自分には生きている価値が無いのではないかと本気で思っていました。そんな時「大丈夫

夫！あなたは友達も多いし、部活の後輩にも慕われているし、何より頑張り屋さん。就職の結果より、私はあなたのそういう所を尊敬しているし、うらやましいと思ってるよ。」と一番の友人に励まされ、就活の結果が全てではない、私は存在する価値がある、と感じる事ができて本当に救われたという経験があります（おかげでその後、就職も決まりました。ありがとうございます！）。

人生において相手からテストの点数、受験の合否、就活先、年収、役職などの数値や結果、ステータス等で測られる機会は常にあります。でもそれだけでは測りきれない、もっと大切な事があるという視点を周りの大人たちが理解し、すべての子どもたちが自分の存在に自信をもって成長してくれる事を親として願っています。

子どもの成長

瑞浪市立瑞浪南中学校

PTA会長 有我 哲弘

親として子どもの成長は気になることです。人それぞれで、成長を感じる時は違うと思います。子どもに身長を抜かれた時や、子どもの勉強内容が難しいと感じた時。徒競走をして負けた時、なんて話も聞いたことがあります。

それ以外にも色々な時があるとは思いますが、私が成長を感じた中の一つにスポーツがあります。

我が家は子どもが三人います。高校一年生、中学二年生、小学五年生と男の子ばかりです。そんな子どもたちに何かスポーツを教えようと思い、自分が学生時代から長年やってきたソフトテニスを勧めてみました。

長男が小学三年生から始めましたが、最初は自分が無理やりやらせているのではないかという気持ちがあり、嫌がったり、

子どもが自分でやりたいスポーツがあれば辞めさせるつもりではいました。実際、嫌がった時期はありましたが、段々と楽しくなって来たのか、そのまま中学校に入ってからソフトテニスを続けると言ってくれた時は嬉しく感じました。

試合にも出るようになり、小学生の時は負けても悔しがることもなかったのですが、中学生になってからは試合に負ければ悔しがり、自主的に練習をするようになってきました。家に帰って来てからも外で練習したり、ネット動画で上手な人たちの試合を見て研究したりするようになりました。

勉強も大事なのですが、自分の好きな事に対して集中して頑張って努力している姿を見た時、成長しているんだなあと感じました。

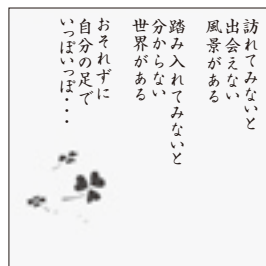
さらにソフトテニスの中で一番成長を感じたときは、私が子どもと試合をして負けた時でし

教育の窓

きらめく子どもたちと共に いっぱいっば...

神戸町立神戸小学校

教諭 琴梅 育子



本校に、通級指導教室「きらめき」が開設され、今年で三年目を迎えます。

開設以来、個別の学習だけでなく、ペアやグループでの学習も多く取り入れ、いろいろな仲間とかわりながら活動することでコミュニケーションの力を伸ばし、社会性を高めることに努めました。そんな中で、子どもたちは様々な表情を見せてくれました。

開校以来、個別の学習だけでなく、ペアやグループでの学習も多く取り入れ、いろいろな仲間とかわりながら活動することでコミュニケーションの力を伸ばし、社会性を高めることに努めました。そんな中で、子どもたちは様々な表情を見せてくれました。

大垣桜高校 まんが研究部

七夕



逆さ言葉

ねてしましましてね
(寝てしましましてね)

出題・田口 照 (揖斐郡)

ができない悩みを打ち明けてくれた子……。そんな子どもたちの心に触れるたびに、愛おしさがこみ上げてきます。

人間は、文字通り、人の間に生まれ、人の間で育ち、人の間で自らの人格を形成していきます。人とのかわりの中で「自分」の存在価値を見出し、他の人の存在価値を正しく認め、共に生きることで最大の喜びと言ってもよいでしょう。だからこそ、人とのかわりの中で悩んだり苦しんだりもするのだと思います。

子どもたちは、一人一人みんなきらめく存在です。

「この子も社会の中で受け入れられ、愛され、生きがいのある人生を送ってほしい。」そんな思いでいっぱいです。

私自身が人としてまだまだ発達途上です。今年も子どもたち一人一人の心に寄り添いながら、日々のささやかな成長を大切に、共に「いっばいっばい」歩んでいきます。

親の背を見て子は育つ

多治見市立笠原中学校

教頭 小池憲弘

最近ではあまり耳にすることが少なくなってきたことわざですが、今年度から勤務させていただいている笠原中学校では、改めてこのことわざが説得力があるものとして感じています。

笠原中学校の生徒は生徒会を中心に「学び合い学習」「ひろがり読書」「やまびこ挨拶」「響き合い合唱」「まごころ清掃」の五本柱を常に大切にしながら生活しています。

朝、生徒玄関の所に立っていると、こちらから声をかける前に生徒の方から「おはようございます」と元気のよいあいさつをしてくれます。とっても気持ちのよい笑顔でしてくれるので、朝からさわやかな気持ちになります。

しようという気持ちが伝わってくる姿で掃除をしています。顔が床につくくらい低い姿勢で床を一生涯懸命磨いている姿は圧巻です。なぜ、こんなに素晴らしい姿が表せるのだろっと思えていました。その要因の一つに保護者の方の姿勢があることに気がつきました。

四月二十二日にPTA授業参観がありました。保護者の方が廊下等ですれ違う度に「こんにちわ」と気持ちよく挨拶してただけでした。ほとんどの保護者の方は四月から勤務している私が誰なのか分からない状況で、笑顔で気持ちよくあいさつしてくださる姿が、朝、生徒玄関の所で気持ちよく挨拶してくれる生徒の姿に重なって見えてきました。

授業参観の時と同じ事を感じました。授業をしているにも関わらず、子どもの様子を見ることもなく、廊下で立ち話をしている保護者の姿を見かけることがよくあります。笠原中学校では、その光景

を見ることが全くありませんでした。どの保護者の方も教室に入り、子どもが授業に取り組んでいる様子を温かく見守ってくださいました。生徒たちが真剣に授業に取り組んでいる姿と、それを守りかきと見守っている保護者の方の姿も重なって見えました。

『親の背を見て子は育つ』。保護者の方が子どもたちのよき手本となり、子どもがすすく育っている学校に勤務できて幸せだなと感じている今日この頃です。



7月号の

親子ではてな



Q2 日本の都道府県の中で、一番多くの都道府県と接している県はどこでしょう。



Q1 次の漢字のうち、横棒から書きはじめるのはどの漢字でしょう。

ア 有
イ 友
ウ 右
エ 布



応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 7月号クイズの答え
- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉

3月号クイズ答え

- Q1 3(昼と夜がほぼ同じ)
Q2 13個

3月号のクイズ当選者

赤堀 怜希 (岐阜市) 田口 照 (揖斐郡)
川島 秀典 (各務原市) 清水 稜斗 (郡上市)
高木 琉ノ介 (瑞穂市) 鈴木 麻友 (郡上市)
安藤 央菜 (本巣市) 三宅 晴 (美濃加茂市)
堀 希実 (羽島郡) 長瀬 良磨 (美濃加茂市)
山下 琥太郎 (大垣市) 杉山 華梨 (加茂郡)
柳瀬 綺音 (不破郡) 井戸 さくら (中津川市)
石川 真優 (恵那市)

お試し
クッキング

夏野菜たっぷりスパゲティ

岐阜県学校栄養士会

岐阜県学校栄養士会

7月になると畑で夏の野菜がたくさんとれるようになります。今は野菜の旬がなくなったといわれ1年中お店で売られている夏野菜ですが、やはり夏の太陽をたくさん浴びて育った野菜は味が違います。トマトや赤・黄のカラーピーマン、ズッキーニなどのビタミンカラーの野菜は見るだけでも元気が出てきます。トマトやカラーピーマンなどは、ビタミンAのもとカロテンやビタミンC、食物繊維が多く含まれていて、栄養も豊富です。また夏野菜は水分が多く、夏野菜を食べることで水分補給をすることができます。

暑いからと言って、冷たいものばかり口にしていると、胃腸が疲れ、食欲が落ちてしまいます。楽しい夏休みのランチタイムに、色とりどりの夏野菜をたっぷり使ったスパゲティを作ってみませんか。

作り方

- ① トマトは皮を湯むきして、角切りにする。
- ② たまねぎはくし形に切り、なすは輪切り、ズッキーニは半月切り、赤・黄ピーマンは乱切り、にんにくはみじん切り、ベーコンは1cm幅に切る。
- ③ フライパンにオリーブ油とにんにくを入れて火にかけ、香りが立ってきたら、ベーコンを炒める。たまねぎを加えてよく炒め、なす、ズッキーニ、赤・黄ピーマンも炒める。
- ④ トマト、トマトケチャップ、水を入れて煮込み、塩、こしょうを入れて味をととのえて、ソースの出来上がり。
- ⑤ スパゲティをゆでて皿に盛る。ソースをかけて、粉チーズをふる。

材料 4人分

スパゲティ…………… 320g
ベーコン…………… 2枚 (40g)
たまねぎ…………… 小1個 (150g)
なす…………… 中2個 (140g)
ズッキーニ…………… 1本 (150g)
赤ピーマン…………… 1個 (150g)
黄ピーマン…………… 1個 (150g)
トマト (完熟) …… 中1個 (150g)
にんにく…………… 1かけ
オリーブ油…………… 大さじ1
トマトケチャップ… 3/4カップ (150g)
塩・こしょう…………… 少々
水…………… 1/4カップ
粉チーズ…………… 大さじ1・1/2

●栄養価 (1人あたり)

エネルギー…………… 485kcal
タンパク質…………… 15.8g
脂質…………… 9.6g
カルシウム…………… 82mg
鉄…………… 2.3mg
亜鉛…………… 2.3mg
ビタミンA…………… 94μgRE
ビタミンB₁…………… 0.29mg
ビタミンB₂…………… 0.19mg
ビタミンC…………… 146mg
食物繊維…………… 6.5g
塩分相当量…………… 1.6g



■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の解答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて予約購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■3月号を読んで

子どもが4月から2年生になり、PTA学級委員、ベルマーケ副委員長をやることになりました。今年度はPTAの皆様と色々関わることになります。宜しくお願い致します。 Kさん

毎号楽しみにしています。殆どの人は役員をやりましたが、この冊子を読ませていただくと各学校の取り組みが分かり、交流もできるの役立っていますよ。 Tさん

どの学校も「食」について取り組んでおられ、1冊を読み終えた今、今夜は切り干し大根とひじきの煮つけを作るぞ、と思いました。とても良い刺激を与えていただけるので、私にとっては大切な一冊です。また、リンゴを持て久々野山の児童の笑顔、無垢でキラキラして、私も嬉しくなりました。貴に立派な机がうらやましいです。飛騨はいいな〜。 Hさん

子どもが「わが子のあゆみ」を渡してくれると、親子ではてなクイズをやるのが楽しみです。子どもが学校へ行っている間にわが子の歩みを読むのも楽しみです。クイズに当選するのは嬉しく、いただける図書カードも、子どもは本当に喜び、しばらくとって置き、欲しい本をよく吟味して使っています。先月、11月号を読んで採用された文が自分かと思ひ、図書カードを待っていましたが届かず、がっかりしてしまいました。 Sさん

お試しクッキングの「下呂のみそ鶏ちゃん」は、帰りの遅い時の時短料理で、よく使っています。締めの種類は知らなかったなあ〜。 Iさん

(図書カードはクイズ当選者とイラスト、なぞなぞ、逆さ言葉採用者に差し上げています。○月号を読んで対象になっていないので、ごめんなさい。編集部)

■平成28年度県PTA連合会広報委員

今年度の岐阜県PTA連合会広報委員会の皆さんを紹介します。「わが子のあゆみ」の購読促進やPTA新聞の記事収集に当たります。よろしくお願いします。

▷担当副会長＝加藤拓真(岐阜市藍川東中)

▷顧問＝北川浩子(岐阜市網代小・校長会)

▷委員長＝須田山智成(大垣市江並中)

▷副委員長＝兼松佳緒里(岐阜市境川中・岐阜地区)

▷委員＝瓜野秀典(山県市高富小) 平林巳登志(美濃市藍見小) 川上訓徳(可児市東可児中) 小倉富晴(瑞浪市日吉小中) 熊崎啓介(下呂市尾崎小) 大場諭香(安八郡南平野小・西濃地区) 大澤徳章(関市戸戸小・美濃地区) 高野正廣(美濃加茂市三和・可茂地区) 平林昌浩(恵那市明智小・東濃地区) 高橋勝利(高山市江名子小・飛騨地区)

◇郡市代表広報委員

後藤美穂(羽島市中島中) 伊佐地正美(各務原市中央中) 岩田 漢(羽島郡西小) 新聞美智子(瑞穂市東南中) 林 りえ(本巣市真桑小) 三宅麻衣(本巣郡北方小) 福手一乃(山県市高富小) 三輪吉広(大垣市小野小) 水谷陽子(海津市西江小) 立木 篤(養老郡上多度小) 水野美香(不破郡宮代小) 羽賀真由美(揖斐郡北小) 篠田啓介(美濃市中有知小) 和田望美(郡上市明宝小) 大橋加津(可児市桜ヶ丘小) 長沼直子(加茂郡富加小) 各務あゆみ(加茂郡八百津中) 澤田博紀(可児郡伏見小) 山内浩司(多治見市北陵中) 村瀬友則(土岐市駄知中) 鈴木基晴(瑞浪市釜戸中) 伊藤 篤(中津川市阿木小) 加藤勝義(下呂市金山中) 後藤 彰(飛騨市神岡中)

◇事務局編集長＝渡辺良夫

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



■なぞなぞの答え

- ① 声
- ② カメラ(かめらくだい)
- ③ 黒い犬(黙)

■平成29年9月号のお知らせ(予告)

特集＝育児とPTAで人生を豊かに／表紙＝安校小／学校のたからもの＝小熊小・江東小・大井小・藍川北中／わが家の宝物＝川合小／家庭教育応援団／PTAのABC②／保健室ノート＝古川小／私の先生＝明郷小／半生記＝古井小／一冊の本＝真桑小・日吉中／わが家の約束＝各務原中央小・穂積中／ボランティアニュース＝西郷小・鏡島小・加納西小・関南中／子の思い＝稲羽西小・大野南小・美山中／親の願い＝三和小・今須中／教育の窓＝北方西小・白鳥中／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝大江小／きらり!キッズ!＝桑原学園／我が部活＝江並中／私たちのPTA＝恵那市

わが子のあゆみ

平成29年7月1日 発行
初夏号 第69巻1号
通巻第448号

頒価 200円(年間1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内

電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259

ホームページ／http://www.g-pta.com

Eメール／info@g-pta.com

印刷／サンメッセ株式会社

ふるさと大垣 ふるさと興文

私たちが住む大垣は、大垣、墨俣、上石津の三つの地域からなる人口約十六万人の市です。豊かな自然と地下水に恵まれ、「水の都」とも呼ばれます。また、日本のほぼ中央に位置し東西の文化、交通の要所として栄え、さまざまな文化や伝統が育まれてきました。

興文小学校の校区には、大垣駅や市役所、図書館や大垣城などがあり歴史と伝統を誇りとする市民の意識は高く、興文小学校も「由緒ある興文」として大きな期待が寄せられています。一方で、少子化や核家族化、転出入の増加により、地域への愛着や連帯感が徐々に薄れてきているように思います。

本校では、歴史や文化に恵まれた校区である利点を生かし、古くからふるさと学習に取り組んでいます。校区の歴史や文化、産業や自然をまとめた副読本「ふるさと興文」を作り、愛校心や郷土愛を育んでいます。

その一例を紹介します。

三年生では、「人が集まる興文」というテーマの下、学校近くの大垣八幡神社の祭礼として長く続く「大垣まつり」について学習しています。特に、十三両の山車(軸)について、保存に関わる人や神社の宮司さんから話を伺い、その後自分で課題をもって調べています。軸ごとに違うからくり芸の

種類やからくりのしくみ、軸のつくりや軸や祭りに対する住民の思いを調べています。町内によっては、大垣まつりに参加する児童もあり、一年以上前から笛や太鼓を使ってお囃子や、芸軸で披露する踊りの練習に励んでいます。

六年生では、「伝統のページを創ろう」というテーマで学校の歴史を中心に学びます。藩校ができるまでの歴史をみんなで学んだ後、三つのコース「災害」「人物」「戦争」に分かれて学習します。八月二十一日の開校記念日には、ゲストを招いて戦争の話を聞いたり、専門家の方から聞き取り調査をしたりします。災害については、濃尾地震や明治時代の水害などを取り上げ、人物については、興文小学校出身の読売新聞の創始者の子安峻や、スポーツ用品のミズノの創業者の水野利八などを取り上げて調べます。

このように調べて感じたことや考えたことを学習交流会で発表します。先人の活躍や困難な状況でも負けないたくましさなどを学ぶことを通して、大垣市や興文地区への愛着を深めてほしいと願います。

そして、将来遠く離れた土地で生活することになっても、

「どちらの出身ですか?」と尋ねられたら「大垣市です。興文小学校を卒業しました。」と胸を張って言ってほしいと思います。



▲戦争の話を聞く児童



▲調べたテーマについて発表する児童



▲総合発表会



▲副読本「ふるさと興文」



▲大垣八幡神社



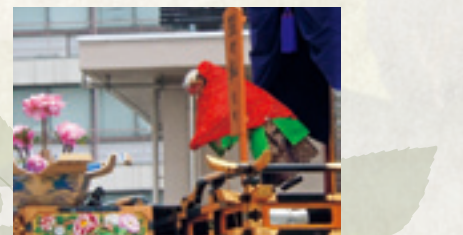
▲大垣まつりの軸と町衆



▲町衆にインタビューする児童



▲踊りを披露する児童



▲からくり軸

歴史や文化に恵まれた興文

きらり！キッズ！

下呂市立上原小学校は、全校児童四十一名の学校です。「あかるくかしこくたくましく」の学校の教育目標を、「にこにこあいさつ」「ぐんぐんべんきょう」「ぴかぴかそうじ」の姿で表し、上原小のじまんとしています。また、地域の学習・行事とおして学んだこともわたしたちのじまんです。

にこにこあいさつ

朝の児童玄関では、立ち止まって、お辞儀をしながら大きな声であいさつが交わされます。あいさつの前に名前を言い、一人ひとりに心を込めています。地域の方、来校される方にも進んであいさつをしています。



▲玄関でのあいさつのようす



▲話す人を見て聞く姿

ぐんぐんべんきょう

「聞き名人・伝え名人」をめざし、話す人を見て最後まで聞くことや、聞いた後に自分の考えを伝えることなどを続けています。わからないことをわからないと伝え、みんなで一緒に考えます。

ぴかぴかそうじ

縦割り班でそうじをしています。少ない人数での掃除は、担当場所も広く大変です。膝をついて床拭きをしたり、汚れを見つけてきれいにしたりと時間いっぱい取り組んでいます。



▲膝をついて床掃除

地域を学ぶ

上原小学校は、昭和五十四年から「みどりの少年団活動」を続けています。学校林の間伐、下草刈りを、地域の方の指導のもと、総合的な学習の時間や親子二緒のPTA活動で行っています。米作りや縄などなどの体験、福祉施設訪問など、地域の学習とおして、自分たちの暮らす上原のよさや人との関わりを大切に学んでいます。

地域の行事に参加する

PTAの実践目標に「地域の行事に参加しよう」があります。親子で花苗を植える活動や清掃活動などに進んで参加しています。また、地区の祭の獅子舞・巫女の役割や子ども歌舞伎の出演など、地区の二員としての役割を果たしています。

地域の福祉施設を訪問して、日頃の学習の成果を発表したり、いっしょに遊んだりしています。自分たちの発表を見て、楽しんだり、褒めたりしてもらえるとうれしくなります。



▶福祉施設での交流

生活科や総合的な学習の時間で作った米や野菜を材料にして、花餅を作ったり雑煮を作ったりします。家族やお世話になった地域の方と一緒に食べます。

◀文化祭での交流



▲間伐体験



▲和川区 獅子舞・神楽・巫女

祭前は、毎晩のように練習があって大変ですが、見た人が喜んでくださったり、「よかったよ」と声をかけてもらったりとうれしくなります。



▲門和佐区 子ども歌舞伎

陸上部



- ①地区大会入賞、県大会出場
- ②「一流の選手である前に一流の中学生であれ」を部訓として、日々練習に励んでいます。

野球部



- ①東濃大会出場
- ②1・2年生全員で団結し、野球をすることを大切にしています。練習では一人一人が声を出して、集中して練習に打ち込んでいます。

剣道部



- ①市大会優勝、地区大会2回戦突破
- ②昨年度の市大会では、男女とも団体優勝することができました。今年も2連覇を目指して、日々の稽古に励んでいます。

女子ソフトテニス部



- ①市大会優勝、地区大会1回戦突破
- ②昨年度も中体連市大会で優勝することができ、5連覇を達成することができました。今年は6連覇を目指しています。

恵那西中学校では、部活動においても校訓「自律創造」を生かし、自分を律して仲間とよりよい活動を創造することを目指しています。

- ①目標
- ②目標に向けて頑張っていること、大切にしていること



ソフトボール部



- ①市大会優勝、地区大会3位入賞
- ②「楽しんでプレイをする」を大切にしています。互いにアドバイスをし合い、自分たちで高め合いながら練習をしています。

バドミントン部



- ①県大会出場
- ②素振りや体力づくりなど、基礎・基本を大切にしながら、日々の練習を頑張っています。

吹奏楽部



- ①吹奏楽コンクール金賞
アンサンブルコンテスト金賞
- ②「魅せる演奏」をテーマに、見ている人も自分たちも楽しんで演奏できるように練習をしています。

男子ソフトテニス部



- ①市大会優勝、地区大会ベスト8
- ②全員で声を出し合い、楽しく練習に取り組んでいます。自主的に朝練習も行い、目標に向かって頑張っています。

女子バスケットボール部



- ①県大会出場
- ②人数は少ないですが、明るくて楽しい部活です。試合で全力を出し切れるように、普段の練習にも真剣に取り組んでいます。

男子バスケットボール部



- ①市大会上位入賞、地区大会ベスト8
- ②走り込みなど、つらい練習もありますが、仲間と共に目標に向かって頑張っています。

文化部(家庭科)部



- ①学年の壁がなく、みんなで楽しく活動ができる部活を目指します。
- ②ナフキンや配膳台のカバーなど、学校でみんなが使う物を楽しく製作しています。

文化部(美術)部



- ①コンクールで一人一作品入選
- ②コンクールに向けて、新しい技法を学んだり、互いに切磋琢磨したりして、技術の向上に努めています。

トレーニング部



- ①全員でまとまって活動する
- ②異なる競技に取り組む仲間同士でも、全員で声をかけ合い、全員で体力向上に取り組んでいます。

卓球部



- ①市大会で団体戦2連覇、地区大会出場
- ②昨年度は団体戦で優勝をすることができ、今年は2連覇を目指して、日々頑張っています。

男子バレーボール部



- ①地区大会優勝、県大会出場
- ②互いにアドバイスをし合いながら、技術を高め合っています。少ない人数での練習ですが、目標に向かって日々努力しています。

女子バレーボール部



- ①市大会優勝、県大会出場
- ②つらいときや大変なことがあっても、「必笑」というめあてを大切に、笑顔で楽しく練習しています。

私たちのPTA

関市立桜ヶ丘中学校PTA

平成二十九年PTAスローガン

「共学・共進」

子どもと共に学び、共に人としての歩みを進めよう

学校紹介

関市立桜ヶ丘中学校は、関市南部の閑静な住宅街の中にある、全二二学級、全校生徒五〇二名の学校です。本校では、仲間と共に互いを鍛え高め合える生活をめざしています。その中で、いじめや差別があつてはならないことはもちろん、それにつながる言動もあつてはなりません。そこで、仲間の気持ちを考えること、いじめや差別、それにつながる言動を「しない」「させない」「見逃さない」こと、仲間の気持ちに添えて動くことを柱として生活しています。

PTA紹介

「共学・共進」をスローガンに、子どもと共に学び、共に人としての歩みを進めることをめざし、本部役員会のもと五委員会及び部活動育成委員会、特別委員会を位置付け、全会員の協力のもと活動を進めています。

○本部委員会
本部委員会は、PTA活動全体を統括するとともに、本部役員の担当委員会を決め、各委員会委員長とともに、PTA活動の充実をめざして活動しています。資源回収の後には、生徒会と懇談を行い、生徒会の声を大切にしてPTA活動を運営しています。



PTAと語る会

紙類、アルミ缶は、常時回収しています



○支部委員会

支部委員会は、学校と地域の連携に努め、校外における生徒の補導及び生徒指導の活動とおして、地域における生徒の生活行動を援助しています。また、資源回収を行い、親子でPTA活動に参加できる場を位置付けています。

○広報委員会

広報委員会は、会員相互の意思の疎通をはかることをめざし、年3回のPTA新聞の発行、情報活動に努めています。紙面の構成から委員で考

え、仕上げでは業者の方を呼んで、配置、配色まで一緒に行っています。

○家庭教育委員会

家庭教育委員会は、親としてのあり方、家庭での教育のあり方を追求すると共に、教育環境の整備・充実に協力しています。また、制服リサイクルを行い、物を大切にする心を子どもたちに広めています。



制服リサイクル

○保健安全委員会

保健安全委員会は、交通安全指導、学校給食等、生徒の健康管理、調査ならびに対策に努めています。また、学級委員会とタイアップして、自転車点検を行っています。

○学級委員会

学級委員会は、授業参観後の懇談会を運営し、学校、学級と家庭の連携を密にして子どもの指導にあたっています。また、保健安全委員会と合同で校内環境整備を行っています。

○部活動育成委員会

部活動育成委員会は、各部の育成会長により組織されています。六月に行われる部活動激励会では、中学校体育連盟主催大会に参加する生徒に、育成委員長から激励の言葉を贈っています。

○創立三十周年記念事業特別委員会

平成二十八年度は開校三十周年にあたることから、創立三十周年記念事業特別委員会を設置しました。航空写真を撮影するとともに、記念品として会議室長机、冷水器の購入、設置を行いました。

様々な活動を通して、共に学び、共に進むPTAであり続けることができます。これから取り組んでいきます。

広報委員会活動風景